

あしたのモニカ
く人間になった飼い犬女子とラブラブ結婚生活する百合音声く
台本

作者名…新條 にいな
nimashinjou@gmail.com

1・モニカとの再会

ある真夏の夜。二十時ごろ。主人公の自宅。
主人公、ベッドの上に寝かされている。
主人公は帰宅途中、過労により、道で倒れてしまった。
そこをモニカに見えられ、彼女によって自宅に運び込まれたのである。
モニカ、目を覚まさない主人公を、心配そうに、じっ……。と見つめている。
と、そこでもやく主人公が起きる。

SE1…主人公の部屋の環境音 【トラック中ずっと、耳をすませば聞こえる程度の、ごく小さな音で流す】

SE2…主人公が目覚め、ゆっくりベッドで動く音 【すべて流す】

「【とても嬉しい。ホッとしている】

あ……！ 起きた……！

ああ。良かったわ！ やっと目を覚ましてくれたわね。

【とても心配して】

大丈夫？ どこか痛いところはない？ 頭は打たなかった？

あなたってば、あその道で気を失って倒れていたのよ。

どう考えても過労ね？ 働きすぎね？ 頑張りすぎなのよね！ あなた。

でもね安心なさい！

スマホもお財布も鍵も、ちゃんとここにあるから。

【得意げに】

フッフ私優秀でしょう。いい犬を飼えて幸せね！ あなた」

主人公、目を覚ましたはいいが、何が起きているのかよくわからない。

主人公、今の話で、自分が道で倒れたらしいことは理解できた。

しかし、自分を助けてくれたらしいこの少女は、全く見知らぬ他人。

主人公『助けてくれたのは嬉しいけど……。この子、誰？』と思い、ポカンとしている。
しかも彼女は、さつきから妙なことも言っている。

SE3…主人公がベッドから起き上がる音 【0～4秒ほどまで流す】

〈主人公〉

「あの……」

「うん？」

〈主人公〉

「あなたが助けて、ここまで運んでくれたの？」

【説明不足だったことに気づく】

あ。

ええ！ そうよ。

私があなたを見つけて、あなたの家まで運んだの。

【得意げに】

でも、こんなのは当然の勤めよ！ 私はあなたの犬なんだから。

あなたに何かあった時。

駆け付けるのは自然な事だわ！

SE 4

…モニカがごそごと主人公の方へ近づく音

【0～3秒ほどまで流す】

【ホッとしてため息をつく】

はあ……本当に無事でよかった。

あのまま外で眠ったままだったら、色々危なかったわよ。

急いで来てみて本当によかった！ やっぱり夢で見た通りだったわ。

【心配そうに】

ねえ。見た感じ、特にケガはしてないようだけど……。調子はどう？ 一応病院に行く？

あなたが寝てる間に、夜間やっていると探しておいたから。

なんだったらタクシー呼んで……」

〈主人公〉

「身体は、おかげさまで大丈夫。それより、もっと大事な事が……」

SE 5

…モニカがさらにごそごと主人公の方へ近づく音

【SE 4と同じ音。10～13

秒ほどまで流す。モニカが主人公を心配していることを表現するために、SE 4よりもボリウムを大きくする】

「え…… もっと大事な事？

【真っ青になる。『そんなに悪いところか……』と、ガーンとショックを受ける】

どうしたの……… そんなに痛いところがあるの………

【慌てる】

ああ、やっぱり救急車呼びましょう！

あなたにもし何かあったら。私、私……は」

〈主人公〉

「いやいや、そうじゃなくて。

私が知りたいのは、あなたの事。

助けていただいて、申し訳ないんだけど……あなた、どちら様？」

【ポカンとする】

へ？ あ、私？

【ホッとする。『なんだー具合が悪いわけじゃないのね！』と思う】

もう！ モニカよう！ あなたんちで飼ってる犬よ！

見ればわか……

【『わかりっこないわ！』と気づく】

わかる訳なかったわね！ ごめんなさい！」

しばし沈黙。

やがてモニカが、おずおずと切り出す。

「あのね。信じてもらえるかはわからないんだけど……。

私はモニカよ。

あなたが。実家に預けてる黒のパグ。

昨日までは。普通にパグとして暮らしてたんだけど……。

【言いづらそうに】

昨晚、あなたが、その。よくない目にあう夢を見て。

それを何とか阻止するために。

【自分を人間にしてくれた相手が、人間かどうか怪しいので疑問形になる】

とある……人？ に頼んで人間にもらったの。

それで。大慌てであなたの家まで向かったら。

その途中であなたが倒れていたって訳！」

しばし沈黙。

主人公、ポカンとしている。

【自分でも『この話、怪しすぎるわ……』と思っている】

……うん。我ながら。とても信じてもらえそうにない話をしてるってわかってるわ……。で、でもね！ 証拠だってあるのよ」

SE 6 …モニカが首輪の皮部分に触る音 【0～3秒ほどまで流す。2～3秒目の『トントン』という音で止める】

「ほら見てこれ！ あなたが昔買ってくれた首輪！
人の首に巻いてもおしゃれじゃない」
そもそも。何で私があなたの家にすんなり入れたと思う？」

SE 7 …モニカが主人公のかばんを取る『こそ』という音 【0～5秒ほどまで流す】

「鍵はいつも！ 鞆のここに入れるって知ってたからよー！
ほ、他にもね！ あなたの事なら何でも知ってるわ！
あ、あなたがすごく忙しくなって。
実家を離れざるをなくなるまでの事だけど……」

しばし沈黙。

主人公、まだボカンとしている。
だが、この話は信じてもいいのかもしれないと思い始めている。
それに、たとえ嘘でも、彼女が自分を助けてくれたことには変わらない。
一方モニカ『やっぱり信じてもらえないのかしら……？』とシユンとしている。

【明るく。だが、内心しゅんとしている】

……でもね。別に信じてくれなくてもいいのよ！
私の目的は。

何やら今日、危ない目にあうらしいあなたを助けて。
家まで送り届ける事だから。
それも済んだ事だし！
身体の調子もよさそうなら、私は退散するわ！

【明らかに落ち込んでいる】

じゃあね……」

SE 8 …モニカが立ち上がる音 【すべて流す】

SE 9…モニカがとぼとぼと歩き出す音 【ボリウム小さめに、0ゝ3秒ほどまで流す】

〈主人公〉

「ま、待って！」

モニカ、その言葉を聞いて『ピタ！』と止まる。そして、すぐにベッド脇まで戻ってくる。

SE 10…モニカが勢いよく近づいてくる音 【SE 9と同じ音。4ゝ6秒の音を使用し、かなり早めにスピードを変更して、コミカルな印象にする】

【すぐく期待している】

えっ………もしかしてわかったの？ わかっちゃったの？

私が本当にモニカだって！

さすがあなたね！」

〈主人公〉

「というわけでもないんだけど……」

【すぐくがっかりしている】

ええーっ… どっちよー！」

SE 11…主人公がベッドの上を動き、モニカに近寄る音 【SE 7と同じ音。7ゝ10秒ほどまでを流す】

〈主人公〉

「正直、信じられない話すぎて、ついていけないところはある……。

だけどどのみち、あなたが来てくれなかったら私は危なかった。

それに、やっぱりその首輪は本物だと思うし……」

【『信じてもらえる根拠はこれしかない！』 と思っている】

そ、そうよ！

犬であろうと人間になろうと。

この首輪がおんなに似合うのは私だけよっ！

だって私、これが一番の宝物なんだから！

捨て犬だった私が、あなたのおうちの子になった証なんだから！」

〈主人公〉

「……その話を知っているのは、私とモニカだけだね。

私もあなたはモニカだと思う。

モニカ、疑ってごめんね。

うちからここまですごく遠いのに、私のために、頑張って来てくれたんだね。

ありがとう」

【嬉しくてたまらない】

信じてくれるの……」

やっぱりあなたは最高ね。私、絶対こうなるってわかっていたわ！」

〈主人公〉

「……でも、途中ちよつとダメそうだなって思ってたかった？

不安にさせてごめんね」

「……んん、まあ、多少ではなく不安もあったけど。

【気を取り直して元気になる】

済んだ事はもういいわ！

じゃあ信じてくれたなら、早速なんだけど。

今日から私。ここに住んであなたのお世話をさせてもらうわ！

激務、将来の不安に苦しむあなたを。

パグ犬（けん）からスーパー美少女に変身した私が守ってあげる！

【得意げに】

フフフ、覚悟なさいね。

これからあなたの人生、いい事しか起きないわよ！」

〈主人公〉

「それは頼もしい！ ぜひ守っていただきたい！」

「あ、そうだ！ 後でお父さんとお母さんに

『モニカが脱走してうちまで来ちゃったので、こっちで飼います』

って連絡してね！

でないと私。失踪した事になっちゃうわ。

で、まずは何をしましょうか。

【『とりあえずお茶でも飲む？』と聞きかけて、主人公の容体に気づく】

とりあえずお茶でも飲……」

主人公、話が一段落して落ち着いたせいかな、急に気分が悪くなる。
これまでは身体を半分起こして話を聞いていたが、フラリと枕の上に頭を置く形で倒れる。

〈主人公〉

「そうだね……。お茶も飲みたいけど……」。

やっぱりまだ気分が悪いから、病院に付き添ってもらおうかな……」

SE12…主人公がベッドに、ゆっくり『ドサ』と倒れる音 【すべて流す】

【真っ青になって】

キヤー！ 大丈夫！ すぐ病院！ すぐ病院に行きましょう！
わー！」

しばらく環境音のみで、フェードアウトする。

SEなし・整音のみ。整音完了時点で完成

【明るく得意げに。心底嬉しそうに】

私の名前はモニカ！

あなたが昔、助けてくれた犬よ。

こうやって、人間になれたからには。

あなたの事、バリバリお世話しちゃうんだから！

【ひときわ得意げに】

だから私の事。お嫁さんだ、って思ってくれていいのよ！

【嬉しくてたまらない】

フフフ。今日からよろしくね！

だーいすき！」

3・衝撃の事実！ えっちしないと、人間でいられない！

1から数日後。夜二十一時ごろ。モニカの自室。

モニカ、主人公に自室を与えられ、さっそく住める状態にすべく、荷物を整理している。いかんせん急な事なので、与えられたのは主人公のおさがりばかりだが、それでもモニカは有頂天。嬉しさのあまり、片づけながら独り言をしゃべっている。

主人公は別の部屋にいる。

SE1…部屋の環境音 【トラック1のSE1と同じ音。トラック終了までごく小さな音で流す】

SE2…『ガサゴソ』と、モニカが荷物を整理する音 【トラック1のSE7と同じ音。30〜36秒ほどまでを、若干大きめのボリュームで流す】

「鼻歌を歌いながら荷物を整理している」

ふん、ふん、ふーん♪

【※マークまで明るく、わざと説明口調で話す】

こうしてパグ犬（けん）のモニカは。

大好きなあの人と、ついに人間として同棲生活を送る事になったのだわ！ ※

はあ。お父さんとお母さんに深く追及されなくてよかったわ。

『無事かどうか写真送って』とか言われたらどうしようと思ったけど。

まあ、基本的に適当なのよねうちの人達って。

【『あの人』は主人公の事】

それからあの人を悩ませてた仕事相手の人も。

最近はすっかりおとなしくなったようだし。

これで仕事も少しは楽になるわね。

早速私のアルバイト先も決まったし。何だか順調すぎて怖い位だわ！

【やる気満々で】

明日から念願のお花屋さんよ！ 頑張るわー！

【少し間を置いて】

それにしても、あの不思議なお姉さんの紹介とはいえ。

『犬です』って正直に言っても雇ってもらえるなんて。

あの店っていうか、この街自体どうなってるのかしら。

まさか『犬ならあんまり珍しくないですね』って言われるとは思わなかったわ。

【『ハッ！』と思い至る】

もしかしたら私が知らないだけで、この辺には人間じゃないものがいっぱい住んでるのかしら。

……いつかそんなお友達が、普通にできちゃったり？

【想像するだけで、ちょっと楽しくなってくる】

幽霊とか……人魚とか……宇宙人……とか？

【そんなのありえないと笑い飛ばす】

フフフ！ まさかね！

そんなの『人外娘（じんがいむすめ）が大渋滞！』だわ！」

そこで電話がかかってくる。

モニカ、人間になれたといえど、電話はまだ慣れないので、内心かなりビクビクしている。

SE3…電話の着信音 【0―3秒ほどまで流す。2コール分。その後、ボリュームを落と

して、SE5までセリフの邪魔にならないように重ねて流す】

「【内心かなりビクビクしている】

おっと！ 電話だわ。

【冷静なふりを装い、ドヤっている】

でも私は慌てたりしないの。もう人間だからね……」

モニカ、スマホの表示から、相手の名前を確認する。

それは先ほど話題に出た『あのお姉さん』であった。

『あのお姉さん』は、モニカを人間にした張本人。

とある大学で『人ならざるものの生活をサポートする』という、謎の研究をしている人である。

モニカは彼女に、犬から人間にしてもらう代わりに、定期的に大学へ行って検査やテストを受け、そのデータを提供するという契約で人間にしてもらっている。

なので彼女と話す時は、かなり緊張する。

SE4…モニカがスマホを手取る音 【すべて流す。ボリュームは小さめにする】

SE5…モニカがスマホを操作する『ピッ』という音 【すべて流す。『ピッ』と1回】

〈電話の相手〉

「もしもし？ 私だけど。

今時間大丈夫？ 検査の結果が出たわ」

「【主人公を相手にする時よりかしこまっている】

こんにちは！ はい！ モニカです！ 大丈夫です！

検査の結果はどうでした？」

〈電話の相手〉

「残念だけど、貴方の身体が完全に人間になっていない事が発覚したわ。こちらでも対……」

【真っ青になる。『こちらでも』から先の事は全く聞いていない】

えっ？ そんなの聞いてないです！

電話の相手、モニカが話を聞かないので呆れている。

電話の相手、予定では

『こちらでも対処するけど、当分は次の事に気を付けてほしい』

『とりあえず応急処置として、明日にでも大学に来てほしい』

と説明するつもりだった。

が、ここはあえてそれを話さず、少し意地悪してやろうか……。という気分になってくる。

〈電話の相手〉

「……そんなの当たり前でしよう。

貴方、あの日、話を聞く前に飛び出して行ったんだから」

「うぐぐ……。それを言われると、ぐうの音（ね）も出ません……。

でも。私の身体が完全に人間になれていないって事は、つまり……」

〈電話の相手〉

「……それはすなわち。

『アレ』を行わなくてはならないという事ね」

【とても不安で、自信がない】

で、できるんでしょうか。私……」

〈電話の相手〉

『できるんでしょうか』じゃないでしょうか？ やるのよ。

貴方。もともと彼女とそうなりたくて人間になったんじゃないの？

これは逆に、勇気を出すチャンスなんじゃない？」

「……」

〈電話の相手〉

「……まあ冗」

電話の相手『まあ冗談はこのくらいにして』と、本来の説明を始めようとする。
しかし、モニカ、までも全く聞いていない。
勢いよく立ち上がる。

SE 6…モニカが勢いよく立ち上がる音 【すべて流す】

「わかりました！ やります！ やってやろうじゃありませんか！」

〈電話の相手〉

「えっ」

「【不安のあまり、しゃべり方が変になっている】
けけっ結果を。楽しみにしてて下さいよね！
それでは！」

SE 7…『ピッ』とモニカが電話を切る音 【SE 5と同じ音。すべて流す。『ピッ』と1回】

SE 8…主人公がドアをノックする音【すべて流す。SE 7の電話を切る音とほぼ同時で、あまり聞こえない】

SE 9…主人公が部屋に入ってくる足音 【すべて流す】

〈主人公〉

「おーい」

SE 10…モニカが勢いよく飛び跳ねる音 【すべて流す】

「【非常に驚く。主人公がいる事に、今気づく】

ふぎやっ！ いつからいたの？

ノノノノック位してよね！」

主人公、内心『ノがずいぶん多いな』と思っている。

〈主人公〉

「えー？　したよー？　どうしたの。何かあった？」

【声が震える。真っ青になりながら】

そう。何かあったの。大変なのよ。

【おずおずと】

あの……ね。突然なんだけどあなたに頼みがあるの。

あの。何も聞かずに……私と……」

主人公、明らかにモニカの様子がおかしいので『何かあったのだろう』と察する。
とりあえずモニカの目の前まで行き、話を聞こうとする。

しかし、モニカが具体的に何を話したいのかはわからない。キョトンと問い返す。

SE11 …主人公がモニカに向かって歩いてくる音 【SE9と同じ音。2回分繰り返して流す】

〈主人公〉

「うん？　『私と』？　なんででしょう？」

対するモニカ、主人公が真面目に話を聞いてくれる雰囲気なので、かえって申し訳なくなってくる。

これから自分をお願いしたい事は、あまりにもバカバカしいというか、嘘っぽいというか『どうしてそうなった』なので、信じてもらえる氣もしない。

おそらく無理だろうとわかっていながら『とりあえず自分一人で何とかしてみよう』と思
い、主人公を追い出してしまう。

「やっぱり何でもないわ！

あの！　今日はもう寝るから！

急ぎの用事でないなら明日に改めてもらえるかしら！」

〈主人公〉

「あ、そう？　じゃあまた明日にするね……」

「ええ！　そうしてもらえると助かるわ！

ではまた明日！　グンナイ！」

SE12 …モニカが主人公を追い出す足音 【すべて流し、2回繰り返す。スピードをかな

り上げて、無理やり追い出している印象にする】

SE13 …モニカが勢い早めに自室のふすまを閉める音 【すべて流す】

主人公『頼みごとがある』と言われたと思いきや追い出され、突然の事にポカンとしている。

しかし部屋の前で呆然と立っていると、再び扉が開いて、モニカが申し訳なさそうに出てくる。

SE14 …モニカがふすまを『そろそろそろ……』と開ける音 【0～3秒ほどまで流す】

「ごめんね。おやすみなさい……」

SE15 …モニカが扉を『そろそろそろ……』と閉める音 【SE14と同じ音。そのまま

続きの4～11秒を流す】

しばし間。

そのまま環境音のみで、やがてフェードアウトする。

4・はじめてのキス

3 から数時間後。夜二十三時ごろ。

モニカの身体、なんと人間の耳が消え、犬の耳に戻ってしまっている。

モニカ、なんとか隠そうとするが、まるで意味はなく、ただ耳をいじっているだけになっている。

SE1…部屋の環境音 【トラック1、3のSE1と同じ音。トラック終了までごく小さな音で流す】

「これをこうして！ どうっ！

【ガックリして声が低くなる】

……あ、何も変わってない。さっきと同じだわこれ。

【気を取り直す】

それならこれで！ どうかしら！」

SE2…モニカがガクつと床に手をつく音 【すべて流す】

「ああーっダメ！ 狂おしい程に変化なし！

あああ……。ダメだわ。どうにもなんない。

このままじゃ私、どうなっちゃうの……は」

モニカ、現実逃避を始める。頭から布団をかぶって、耳を見ないようにする。するとそこに、主人公がやってくる。

SE3…モニカが布団をかぶる『ばさー！』という音 【すべて流す】

SE4…主人公がドアをノックする『コン、コン』という音【トラック3のSE8と同じ音。すべて流す。モニカが布団を上げる音とほぼ同時で、あまり聞こえない】

〈主人公〉

「モニカさん。さっきからどうしたの。

このままだとどうなっちゃうの？ わたしや心配ですよ？」

モニカ、慌ててさらに布団をかぶって、頭を隠す。

「うびゃあは」

だからー！ ノックしてって言ってるじゃないのよお！」

〈主人公〉

「いや、してるからね。さっきも含め、二回ともノックしてるからね？」

【「パニックで泣きそう」

うっ……。だから何でもないってば。お願いだから。今は放っておいてほしいのよお！」

〈主人公〉

「いやいや、放っておけないよ。何か困った事があるんでしょう？」

【「主人公の優しさが嬉しい」

えっ……。

何でそんなに優しくするのよお。

そんな事言われちゃったら、私……」

〈主人公〉

「そんなの当たり前でしょう。私はモニカが大好きなんだから。

よかったら説明してほしい。モニカに一人で抱え込んでほしくないよ。

……そういえば。人間になってからあんまりしてなかったよね。

抱っこさせてほしいな。おいで」

「あうう……」

モニカ、主人公に優しくされて、とても嬉しい。

抱っこされるのも久しぶりなので、すごい勢いで飛びつく。

SE5…主人公がモニカの元に近づく足音 【トラック3のSE11と同じ音。すべて流し、

4回繰り返す】

SE6…モニカが主人公に抱きつく音 【すべて流す。少し音を小さめにする】

【「とうとう泣き出す」

うわぁーん！

あのね……あのね……」

モニカ、主人公に抱きしめられるとホッとして、とうとう泣き出してしまう。

一人で何とかしようと思ったのに、もう主人公に甘えてしまう。

SE7…モニカが被っていた布団を取る『ばさ!』という音 **【SE3と同じ音。すべて流す。さらに、3よりもスピードを速め、ポリウムを若干大きくする】**

【泣きながら】

あのね。言ってなかったけどお。私の身体っ。

本当はっ。完全に人間になれた訳じゃなくてえ……。

放っておくとお……」

主人公、モニカの頭部を見て驚く。

〈主人公〉

「み！ 耳が！ 人の耳が消えて犬の耳に変わってる！」

【泣きながら。『こ』が『ぐ』になる】

ごっ。ごんな風にい……。犬に戻っちゃうのよう。

今は耳っ。ただけどお。次はしっぽが生えて。

そ。その後はどうなるかわかんない……」

SE8…主人公がモニカの背中を撫でる『ぼん、ぼん』という音 **【0～3秒ほどまで流す】**

主人公、驚きのあまり絶句するが、よく考えてみれば不思議な事は今に始まった事ではない。もうこうなったらファンタジーにとことん付き合おうと、腹をくくる。

〈主人公〉

「わかった。まずは落ち着いて。

それは怖かったでしょう。おおよしよし。誰にも言えなくて、不安な思いをしたよね。でも、もう安心していいからね」

【泣きながら】

うんっ。うんっ。ありがとお……。怖かった。怖かったよう……。

【10秒ほど泣き続ける】

ぐすっ。ぐすっ。うわぁーん……」

SE9…主人公がモニカの背中を撫でる『ぼん、ぼん』という音 **【SE8と同じ音。同様**

に0ゝ3秒ほどまで流す】

〈主人公〉

「よしよし、いい子いい子。……少し落ち着いた？」

【まだ涙声】

ぐすつ。うんつ。もお大丈夫う……」

〈主人公〉

「よし。じゃあ、状況を整理しよう。

どうしたら元……っていうか、また人間になれるかだよね。

モニカ、そういう方法はあるって聞いてる？」

モニカ、主人公が優しいので嬉しい。このままもつと甘えたい。

が、主人公が非常に真剣なので、その『また人間に戻る方法』を余計言い出しづらくなる。

【『言い出しづらい』

う。

い。一応、あるみたいつ。

ある事をする。また人間の姿に戻る、らしいんだけど……」

〈主人公〉

「よかった！ あるんだね。安心したよ。

よし、早速それやってみよう。私も手伝うから。

ある事ってなあに？ 協力したいから、言ってごらん？」

主人公、冷静なフリをしているが、実際はかなり不安を感じている。

たとえば『人間の生き血を飲まないダメ』と言われたらどうしよう……。私の血液で大丈夫かな……と思っている。

また同時に、泣いているモニカが可愛いので、心配なのと同じくらい、ついドキドキしてしまう。

【『すく言いづらく』

ある事、とは……」

〈主人公〉

「とは！ どんと来いフアンタジー現象！」

しばし間。

【ぼそっと】

……セックス」

〈主人公〉

「はい？」

しばし間。

主人公、ポカンとする。我が耳を疑っている。

【ヤケになっている】

だからあ！ セックスよお！

詳しくはよくわかんないけど人間とセックスして！

いちやいちやしてアレコレしたら人の形を取り戻せるらしいの！

うわあーん！ こんな言葉二回も言わせないでよお！」

〈主人公〉

「いや、全部で三回言ってるよ」

【ツツコミが入って我に返る】

あ、三回言ってた？

【『でもツツコミどころはそこじゃない！』となる】

いやそこじゃないわよ！

ていうかこんなのおかしいでしょ？ 訳わかんないでしょ？

だから一人で何とかしようとしたのよ！

何ともできなかったけど！」

〈主人公〉

「いやいや、その程度の事で助かった。

生贄を捧げるとか言われたらどうしようかと思ったよ……。

よかったあ……それをすれば、モニカは人間のままでいられるんだね。

本当に安心した。犬のモニカも可愛いけど……。
せっかくおしゃべりできるようになったのに、元に戻っちゃったら淋しいもん」

「えっ……!」

【おろおろする】

あ、あなた。嫌じゃないの？

私。当然だけど人間の知り合いなんて、ほぼあなたしかいないから。
私が犬に戻るのを止められるとしたら。それは……。

【恥ずかしさで『セックス』と言う時に声が小さくなる】

あなたが私とセックスするしか、ないんだけど……」

〈主人公〉

「あ、四回目」

「もおおっ……!!」

〈主人公〉

「嫌なわけではないでしょう。私はモニカが大好きなんだから。

モニカが私を助けるために、大変な思いをして人間になってくれたみたいに。
私もモニカにできることはなんでもしたいと思ってるよ。

……でも、もちろん。モニカが嫌なら、他の方法を探すしかないけど……」

【強く否定する】

私だって嫌な訳ないわ!

あなたが大好きで、あなたの力になりたくて人間になったんだもの。

こんなところで終わりたくない……。

でも、そんなに簡単に決めちゃっていいの？

あなたの気持ちはどうなるの？

他に好きな人がいたりしないの？」

〈主人公〉

「いないいいない。

この通り、仕事に忙殺される割には特に豊かでもない。

むしろ常にカツカツという、実に淋しい一人暮らし生活を送っているよ。

ていうか勢いで言うて私はモニカが大好きだよ。

前から大好きだったけど、助けに来てくれた日からもっと好きになっちゃったみたい。

犬のままであろうと、人に変身しようと、私はあなたのためなら何でもできます。
だから大丈夫。安心して」

【身体の問題を完全に忘れる程嬉しい】
えっ！じゃあ私達、ずっと両想いだったの……？」

〈主人公〉

「そうだよ。ていうかモニカ、人間になった姿が正直とっても私の好きなタイプで……。こんな可愛い子と一緒に暮らせて、すごく幸せだなんて思ってたといひますか……」

「そうだったの？」

【感激して】
嬉しい……！私も！

【ずっと伝えたい事だったので、嬉しくて早口になる】
死にそうになってた私をあなたが拾ってくれた日から、ずっとあなたが大好きよ。
【少し間を空けて。勇気を出して切り出す】

あのね。前に、あなたを助けられればそれで十分なんて言ったのは嘘。
本当は人間になって、あなたと恋人同士になりたかったの……」

〈主人公〉

「そうだったんだ……。すごく嬉しい。
じゃあ、今から私達、恋人同士だね！
安心して、モニカ。あなたの困り事は、これで全部解決するよ。
怖かったよね……よし、よし」

SE10…主人公がモニカの頭を撫でる音 【すべて流す】

【安堵して、鼻をすする】
ぐすつ。

えへ……。良かったあ。じゃあ最初から、何も心配する事なんてなかったのね。

【切り替えが早い】
じゃ、じゃあ！両想いに、なれた。事だし。

【実はとても興味があつた】
キ。キスとか、しちゃう……？」

〈主人公〉

「……うん！　しよう……!!」

【アワアワする】

どうすればいい？　私初めてなのけど!!」

〈主人公〉

「……目を閉じるだけでいいよ。私からする……」

「あ。目を閉じるだけでいいの？　わかったわ!

【おっかなびっくり】

「いっ」

しばし間。主人公の唇が寄せられ、主人公とモニカ、キスをする。

【軽く触れるだけのキスをする】

ちゅっ。

あ……。

【緊張で、少し間があく】

し、した？　今キス、しちゃったの？」

〈主人公〉

「……うん。どうだった……?」

【嬉しくて声が震える】

あ、あのね。

【緊張で、少し間があく】

すごく嬉しい……。

キスって、こんな感じなのね。

【嬉しさをかみしめている】

何だか、胸のあたりが、ふわふわっ、して……。

この辺を。ぐるぐる駆け回りたい気分だわ。

【またキスされる】

んっ♡

【30秒ほどキスする。だんだん深いキスになっていく】

ちゅっ。ん……ふっ……あ……♡　んうっ……ちゅっ♡　ん、ん、あっ。ちゅっ♡　んん
うっ……♡

【呼吸を整える】

はぁ……はぁ……はぁ……。

【感激している】

すごい……キスって、すごいよね……」

〈主人公〉

「ね。すごいね……」

【大興奮している】

うん！　すごい……！　こんなにドキドキしたの、初めてだわ！」

〈主人公〉

「モニカは可愛いね。そんなに喜んでもらえるなんて私も嬉しい……」

【恥ずかしいが伝えたい】

だ、だって……！

【言っているうちに、どんどん嬉しくなっていく】

あなた知らないの？　あなたって最高なのよ！　優しいし、いつも助けてくれるし。すごい匂いだし！　たくさん可愛いつて言ってくれるし！

人がいっぱいいるところでだって。あなただけ輝いて見える位よ！
そんなあなたとキスできるなんて！　すごい！　すごい事なのよ！」

〈主人公〉

「そんな事言ってくれるの、きっとモニカくらいだよ」

【驚く。モニカとしては意外でならない】

そうなの？　でも、その方が都合がいいわ！

だって、あなたがこんなに素敵なのを、私しか知らないなら……。

私があなたの事、いっぱい独占できるって事よね！

【少し間があく。ドキドキ切り出す】

……ねえ。もう一回、キスしたい……。

【20秒ほどキスする。今度は最初から濃厚なキス】

ちゅ♡　んんうっ……ん……ふっ……ちゅっ♡　あ。んっ♡　ちゅっ。んんうっ……ちゅっ。
ん、んっ……ちゅっ♡「

SE11

…主人公がモニカをベッドに押し倒す『ばさ』という音　【すべて流す】

【押し倒されて驚く】

あ……♥

私達、本当に。しちゃうのね。

【本当は『何だか怖い。不安かも』と言いたいが、主人公に悪いので言えない】
嬉しいけど。何だか……」

主人公、モニカが緊張しているので、モニカの髪を撫でる。

SE12…主人公がモニカの髪を撫でる音 【0〜4秒ほど流す】

【撫でられて少し驚く】

あ……」

〈主人公〉

「モニカの髪の毛はさらさらで綺麗だね。つやつや光ってる」

【撫でられてホッとする】

ふふ。

【嬉しくてテンションが上がる】

あ……髪の毛？

本当？ この髪、好き？ フフフ。やったあ。

あのね。私もし人間になれるなら、こんな女の子になりたいってずっと想像してたの。だってあなた。前テレビを見て。

こういう黒髪の、小柄な感じの女の子を可愛いつて言ってたから」

〈主人公〉

「ああ……。言われてみればそんなことがあった気も……」

【むすつとして】

私それが、すごく悔しかった……！

だってあなたの事、この世で一番好きなのはこの私なのに！

あなたは他の女の子にうつつを抜かしてるんだもの！

思わず『キーン！』ってなったのよ。

だからね。その日から毎日考えてた。

いつか絶対あなたがびっくりするような素敵な人間の女の子になって。

あなたをメロメロにさせてやるんだって……。
ねえ、どうかしら。

私、ちゃんと可愛い女の子になれてる……?」

〈主人公〉

「なれてるよ。モニカ、すごく可愛い……」

「嬉しい！」

【軽く重ねるだけが、大きな音のするキス】

ん……ちゅっ♡

【3回、重ねるだけの軽いキスをする】

ちゅっ。ちゅっ。ちゅっ♡

【興奮してくる。10秒ほどかけて、ゆっくり呼吸を整える】

はぁ……はぁ……はぁ……。

あの……い。いよいよ、これから、しちゃう訳だけどつ。

私これから、どうしたらいい?

【不安だが、とても興奮している】

セックスって。具体的に何をしたらいいの……?

私全くわかってないって事はないんだけど。きちんと理解はできてないの……。

あなたはわかる?」

〈主人公〉

「わかるといえばわかる……」

【若干ホッとして】

本当? じゃあ、あなたに任せる。

【主人公を完全に信頼しきっている】

あなたにお願いすれば。絶対大丈夫だもの。えへへ。やっぱりあなたってすごいね。あなたの犬になれて幸せだわ」

ここで一度環境音がフェードアウトし、次のトラックに移る。

5・ドキドキ初えっち

トラック4のそのまま続き。

SE1…部屋の環境音 【トラック1〜4のSE1と同じ。トラック終了まで、ごく小さな音で流す】

〈主人公〉

「じゃあ。ふ、服を脱いで、裸になるよ。手伝うから……」

【緊張してくる】

うんっ。わかった。ぬ、脱ぐわ。

あ……脱がせてくれるの？」

〈主人公〉

「うん。万歳してくれるかな」

【ホッとする】

「うう？ 万歳するの？」

SE2…主人公がモニカの服を脱がせる音

【0〜8秒ほどまで流して止め、セリフ】

【恥ずかしいが、とても嬉しい。内心ニヤニヤしてしまう】

えへ……身体、見せるのは、は、恥ずかしいけど。何だか嬉しいかも。

私達これから裸になって。キスしたり、さわりっこしたり、するのよね。

すごく特別な関係になれた感じがする……。ふふふ！

【しかしここで、自分だけ服を脱いでるのが恥ずかしくなってくる】

あ。でもやっぱり恥ずかしいわ！

SE3…モニカが主人公の服をひっぱる音

【0〜3秒ほどまで流して止め、セリフ】

「あなたも早く脱いでよう！

【ピン！ とひらめく】

そうだ！ 私が脱がせてあげる」

SE4…モニカが主人公の服を脱がせる音

【すべて流す】

モニカ、主人公の服を脱がせようとするが、なかなかうまくいかない。

【うまくできなくて不安になる】

あれ？ この服どうなってるの？」

〈主人公〉

「いーかな……」

【少し安心する】

あ。なるほど」

SE5…モニカが主人公の服を脱がせる音

【0〜8秒ほどまで流して止め、セリフ】

「やった！ できたわ！」

主人公とモニカ、揃って下着姿になる。

【満足げに】

ふふ。これで。私もあなたも。だいたい裸ね！

【キスされる】

ん……ちゅっ♡

えへ。何だか幸せ」

SE6…モニカが主人公に抱きつく音

【すべて流す。音は元の音よりかなり小さめにする】

「ふふ。気持ちいい♡

【うっとりため息をつく】

……はあ。直接肌をびったりくっつけると、こんなにあったかいのね。

【うっとりしている】

あのね。私ね。あなたのおっぱい大好きなの！

柔らかくてもちもちで。

昔から抱っこされてると、すごく安心したのよ。ふふ！

前はせいぜい身体をくっつける位しかできなかったけど。

人の手になったら、こうやって包んで触れるのね。

ねえ。触ってもいい……？」

〈主人公〉

「えっ！」

【「ちょっと得意げに」

私知ってるのよ！ 胸。触ったら気持ちよくなるのよね？」

〈主人公〉

「う、うん。いいけど……。もう。モニカはえっちだなあ……」

「うふふ。じゃあ下着、とっちやうわね」

SE7…モニカが主人公のブラジャーのホックを外す『ふち』という音 【すべて流す。オトハ元の音よりもやや小さめにする】

モニカ、主人公の下着を脱がすなり、胸を夢中で触り始める。

主人公、こうなる事は予想していなかった。

てつきり自分が攻める側だとはかり思っていたので、驚くとともに、恥ずかしくなる。

【「主人公の胸に触って、うっとりしている」

はあ……ふわふわ♥

【「興奮してくる」

すごい。直接触るとこんなに柔らかいのね。

あの。これから。もっと触っちゃうけど。痛かったら言ってね？」

【「ゆっくり目に。興奮して」

ああ……ふにつてつかんだら、こんなに形変わって……すごい……。手に吸い付く、みたい……！

【「主人公の乳首が勃起してきたのに気づく」

わ。真ん中のこども、何だか起き上がってきて。硬くなったわ……。

【「まずい事をしたのかと不安になる」

大丈夫？ 触って平気？」

〈主人公〉

「……いいよ……。こうなるのは、気持ちいいって事だから……」

【うまくできているとわかって、ホツとする】

あ。本当？

気持ちいいの……？　じゃあ、もつとしてあげるわ♥

【おっかなびっくり、乳首を触り始める】

こう？　硬くなったここ、くにくにつて転がしてあげたら、気持ちいいの？

こうかしら。ふふ……気持ちいい？

【主人公が感じているらしい事を理解する】

あ。びくつてした♥

あのね！　ちよつとわかってきたわ。

【嬉しくなる】

気持ちいいのね？

【恥ずかしそうにドキドキしながら】

もつと気持ちよくなってくれて、いいのよ。

【少し言い出しづらい。少し間が空く】

あのね。急にセックスしてほしいなんてお願いして。あなたはいって言うてくれたけど。本当は、迷惑かけてるんじゃないかって不安だったの。

でもあなたが喜んでくれるなら。安心だわ……♥

【もっと嬉しくなる】

あのね！　私いくらでもしてあげる。あなたの気持ちいい事、全部教えて！

【返答を待つより先に、乳首をなめる事を思いつく】

あ！　そうだ。なめてもいい？　この硬くなった、おっぱいの先！

【主人公の乳首を口に含む】

ん……ちゅばっ。

【20秒ほどかけて、主人公の左乳首を吸う。小さめの音で、夢中で吸う】

くちゅるっ……ちゅばっ♥　ちゅっ、ちゅっ、くちゅっ♥　れろれろ……ちゅるっ♥

【口から離す】

ふはっ。

【とても嬉しい。意味はよくわかっていないが『感じている』という言葉を使ってみたくなる】

うふ。感じちゃった？

あ！　片側だけじゃ不公平よね。だってこっちも硬くなってるもの♥

こっちも……。はむっ。

【20秒ほどかけて、主人公の右乳首を吸う。先ほどよりも少し音が大きくなる】

れる……ちゅっ♥　ちゅばっ、ちゅばっ。ちゅばっ♥　くちゅっ……ちゅるっ。れろ……くちゅっ♥

【口から離す】

うふ！

【主人公が気持ち良さそうなので嬉しい】

あなた顔。赤くなってる。気持ちよかったのね？
ねえ！ どうしたらもっと気持ちよくなるかしら？
教えて？」

モニカ、どうやらうまくできているらしいのが嬉しく、自信が湧いてくる。
主人公をそっと押し倒して覆いかぶさる。
対する主人公、とても恥ずかしい。すっかりおとなしくなってしまう。

SE8…モニカが主人公を押し倒す音 【0～1秒目の、1回目の『シュル、ドサ』のみ流す】

〈主人公〉

「ううう……あう……」

【完全に善意だが、まるで煽っているように聞こえる】
恥ずかしがらなくていいのよ。

【嬉しくてキャッキヤしている】

言わないなら♥ 私が自由に色々しちゃうわよ！

【胸全体をなめる】

れろっ……♥

おっぱい、舌を押し付けるだけでこんなにむにゅって形変わっちゃう。すごい……。
そうだ。

【お腹をなめる】

じゅるっ……♥ こことかも気持ちいい？

【主人公の反応がいまいちなので】

あ。そうでもないのかしら。

じゃあこっち？」

SE9…モニカが主人公の腕を真上にあげ『ポン』とおろす音 【0～1秒目の、1回目の『ポン』のみ流す】

モニカ、主人公の脇の下をなめる。

【脇の下をなめる】

ぺろっ。んんむっ……」

〈主人公〉

「あぁっ……!」

【嬉しい】

あ! 正解かしら。じゃあもつとしてあげる!

【20秒ほどかけて、主人公の左脇をなめる。比較的大きめの音で、じゅるじゅるなめる】
じゅるっ……ぺろっ ♡ れろれろ……ちゅるっ ♡ ちゅるる……ちゅっ ♡ ちゅっ、くちゅっ。れろっ。じゅるる……♡

【口を離す。嬉しい】

あなた、脇のところがとっても弱いね。覚えてわ!

あ♡ もちろんわかってるわよ。片側だけじゃだめよね!

こっちも……♡

【20秒ほどかけて、主人公の右脇をなめる。比較的大きめの音で、じゅるじゅるなめる】
れろろ……じゅるっ……♡ ペろっ。ぺろっ。ぺろっ。ちゅるっ ♡ ちゅるる……ちゅっ。
じゅるる……♡「

〈主人公〉

「もう……モニカぁ……くすぐったいよう……。気持ちいいけど恥ずかしい……」

「フッフ当然よ。気持ちよくなる事してるんだもの!」

〈主人公〉

「もう……モニカばかりずるい……」。

私もモニカに触りたい……。おっぱい触らせてよ……」

「……へ? 私のおっぱいも触りたいの?」

【どうしてそうなるのか、よくわからない】

私のおっぱい触ると、あなた気持ちいいの?

【『触るより、触られた方が気持ちいいのでは?』と思いつつ従う】
いいわよ? じゃあこれ。

【『ホック』であっているのか自信がない】

ホック? 外してくれる……?」

難しくて。自分じゃなかなかうまくできないの……」

SE10 …主人公がモニカのブラジャーのホックを外す音 【すべて流す。音は元の音よりも小さめにする】

【びくつとする】

……あ！

ひ、人に外してもらうと、すごく『わ！』ってなるのね。
何か急にすうすうして、は、恥ずかしい」

〈主人公〉

「私もさっきおんなじこと、されたんだけどお……？」

「そ、それは、そうだけどつ」

〈主人公〉

「だから私もしてあげる。後ろから抱っこして触っていい？ お膝の上、おいで」

SE11 …主人公がモニカを抱き上げて、膝の上に乗せる音 【0〜4秒ほどまで流してセリフ】

「【これから何が起こるのかよくわかっていない】

え？ 後ろ向きでお膝に乗るの？ こう？

【キスされる。さっきよりだいぶん慣れている】

ん♡ ちゅっ。

ふふ、好き。だいすき♡

【もう一度キスする】

ちゅっ♡

【後ろから胸を触られる】

あっ……♡

【びくびくつと感じてしまう】

あぁっ……♡ あは んっ♡ ひゃあっ……♡

【快感にわけもわからず、戸惑っている】

ねえっ？ 何かこれっ♡ 変じゃない……？ あっ♡ 何でそんなっ♡ 触り方っ。ひゃっ♡ するのお……？」

〈主人公〉

「モニカだって、さっき触ったでしょう？ お返しだよ……」

「私も触った、けどおつ。何か恥ずかしいっ♡

こ♡ こんなんじゃっ。あ♡ あっ♡ なかったわよおっ♡

【耳にふーっと息を吹きかけられる】

あ！

あっ♡ やだ耳っ♡ いじらないでえっ。

あっ、やあっ。そんなすんすん、しないで……くすぐったあい♡」

〈主人公〉

「モニカ可愛い……。私も大好き。モニカともっと色々したい。

ていうか、可愛すぎて、やばい……」

【「気持ち良すぎて、わけがわからなくなっている」】

へっ♡ 何がやばいのよお。やばいのはこっちだってばあっ。

【『でもこれは言わねば！』と思っている】

あっでも私も大好き！」

モニカ、くすぐったくて恥ずかしいが、主人公がいっぱい好きと言って、可愛がってくれ
るので嬉しい。

不安な気持ちはすでに失せて、主人公とじゃれ合えるのが嬉しくなってくる。

【「耳にいたずらされながら、乳首をいじられてびくっとする」】

ふえっ。ひやっ♡ やめてえ♡ そこ引っ張っちゃやあなの♡ あ♡

好き……。

【「20秒ほどキスする。あまり激しくなく、甘ったるい雰囲気。何度もキスしたり唇を離
したりを繰り返した後、強く舌を吸われる」】

ん♡ ちゅっ♡ あんっ……ちゅっ♡ んんう♡ ちゅ、ちゅ、ちゅっ♡ ああん……！
ちゅるっ。くちゅっ、ちゅっ♡」

〈主人公〉

「モニカ……もう我慢できないかも……こっちも触っていい？」

SE12…主人公がモニカの股間に、下着越しに触れ、撫でる音 【0～3秒ほどまで流す。

音は元の音よりも小さめにする】

ここで主人公の手が、モニカの股間に伸びる。

モニカにとっては予想外の事で、非常にびっくりする。

【混乱する。どうしてそうなるのかわからない】

へっ？ 何でっ？ そこおしっこするところじゃあ？ いいの……？

【とても信じられない】

え？ ここ触ると気持ちよくなるの……？

【主人公の事が心配になる】

そうなの？ でもあなた、やじゃないの？」

〈主人公〉

「全然嫌じゃない。ていうか、すごく触りたい……。でも……」

「わ、わかった。あなたが、いいなら……。私。

【少し間を空けて。勇気を出して言う】

触って、ほしい……。

【恥ずかしいが、打ち明ける】

あ、のね。さっきからずっと。この。お股のところが熱くて。

何だかもうもぞするの……。

だから、あなたの言う通り。触ってもらったら気持ちいいんだろうってわかる……。

だから。あなたさえよかったら。

【泣きそうになりながらお願いする】

※特に聞いている側をドキッとさせる感じをお願いします。

して？」

〈主人公〉

「……わかった。じゃあ、ゆっくり、触るね？」

【「すくくドキドキしている」

うんっ」

SE13 …主人公がモニカの下着に手を入れ、股間に直接触れる音 【SE12と同じ音。

5〜8秒ほどまでを流し、SE14に移る】

SE14 …主人公がモニカの股間を愛撫する水音 【0〜3秒ほどまで流してセリフ。その

後335まで元の音よりかなり小さめに、繰り返し流す。セリフが音声のメインで、この

SEは『かすかだが、確実に鳴っているとわかる程度』でOK】

「手が伸びてきて、ドキドキする」

あっ……♡

【直接触れられて驚く】

ひゃ？

【感じてしまう】

んっ。あ。あっ……♡

【ゆっくり呼吸して快感を耐えようとする】

うんっ……はぁ……はぁ。あ♡ 平気っ。

【感じてしまう】

でもっ。あぁっ……♡ 何か、熱くてえ。ふにやふにやするぅっ」
SE(1)で止める。

〈主人公〉

「モニカ。すっごく可愛いよ。それから……モニカのここ。すごく濡れてる……」

※ここから次の「※」マークで達してしまうまで、非常に甘い声になる

「甘えた声で」

ふえ？ 濡れ？ やだぁ。何か恥ずかしい……。でも何か……」

SE15 …主人公がモニカの股間を愛撫する水音 【378まで繰り返し流し、セリフの内容によって適宜スピードとボリュームを変える。詳しい指示はセリフ内の緑の網掛け】

「あ♡ ひぁっ♡

【キスする】

ん。ちゅ♡

【唇を離す】

あぁっ……何これえ♡ 本当にすっごく気持ちいいっ♡

あ♡ 大丈夫っ。このまま。触って……？

すっごく、あ♡ 気持ちいいからっ。もっと触ってっ？ ぐりぐりっして？

強くして大丈夫っ♡

※ここから少しボリュームを上げる

【夢中で腰を動かして、特に気持ちいいところに主人公の指が当たるように押し付けている】

はぁ……あぁ♡ あ、そこっ。好きっ♡

【夢中で腰を動かして】

あ、あ、あっ♡

すごい、すごいよう。ねっ。もっとさすって？ っ。気持ちいいのお……♡

あーっ……♡

【何とか会話したいので、呼吸を整えようとする】

はあ、はあ、はあ……。

※ここから少しスピードを上げる

【甘ったるく】

ねえ、こんなにすごいのか？ セックスってこんなに気持ちいいの？

ふあっ♡ あっ♡

※ここからさらに少しスピードとボリュームを上げる

好きっ。好きっ。大好きっ。

ああっ♡ きもちいい、きもちいい♡ 気持ちいいよお。

あ、あ、あ♡ もっとして？ 大丈夫だからっ。あ♡ 大好き♡

【20秒ほど喘ぐ。さっきよりも声が高くなり、イクのに近づく】

あーっ♡ あ、あ、あ♡ きもちいい、きもちいいっ。

【ここで達する】

あああっ……♡

※ここでSEを止める。『急に止まった』という印象がないように、フェードアウトさせる

【10秒ほどかけて、呼吸を整える】

はあ……はあ……はあ……。

【少し間を置いて。呆然としている】

何これえ……？ 私、どうなっちゃったの……？」

SE16 …主人公がモニカの背中を撫でる音 【トラック3のSE8などと同じ音。0～1

秒ほどまでの1回分の『ぼん、ぼん』のみ流す】

〈主人公〉

「はあ、はあ……。よし、よし。モニカ、大丈夫？」

【すくく甘えた声で】

うん……大丈夫っ。訳わかんなくっ、なっちゃってた、だけえ……。

【10秒ほどかけて、呼吸を整える。さっきよりも落ち着いている】

はあ……はあ……はあ……。

【すくく甘えた声で】

でも、気持ちよかったあ。セックスってこんなにすごいのか？ ねえ。こんなのでて、人間って大丈夫なの？」

主人公、そう言われると恥ずかしくなってくる。

モニカとこうなってしまうって、自分は大丈夫かというと、大丈夫ではない気がしてくる。

〈主人公〉

「大丈夫じゃないかも……」

主人公、正直なところモニカともっとセックスしたい。が、そこで重大な事に気づく。

〈主人公〉

「あ。モニカ！ 耳！」

「く？」

〈主人公〉

「耳！ 治ってる！」

【すっかり忘れていた】

あ。何か音の聞こえ方違うなって思ったら……。

【今一つ信じられないので、鏡を見て確認しようとする】
か、鏡頂戴？」

〈主人公〉

「はいどうぞ」

SE17…主人公がモニカに鏡を渡す音 【2〜3秒ほどの『スー、チャ』のみ流す】

SE18…モニカが驚きのあまり飛び跳ねる音 【トラック4のSE11と同じ音。元の音より若干ボリウム小さめに、すべて流す】

「すごい！ 耳。完全に元通りになってる！

【主人公の頬に軽くキスする】

ちゅ！

やっぱりあなたにお任せして正解だったわ！

【恥ずかしい】

せ、セックスも。話にはすごく痛いつて聞いてたのに、全然そんな事なかったし」

〈主人公〉

「セックスって言ったのも、これでもう何回目かわからなくなってきたね」

【恥ずかしい】

もお。茶化さないで！

【不安になる】

あつでも、どうしましょう。こんなのすごい……覚え、ちゃったら。私。これからどんないやらしい子になっちゃうかも……」

〈主人公〉

「いいよ？ 私も気持ちよかったし……。私で良ければ……。好きなだけいやらしい子になつてくれても、大丈夫」

【すごく嬉しい】

いいの……？

【安心する】

じゃあ、よかった！

【軽くキスする】

ちゅっ♡

しばらく環境音のみを流し、フェードアウトする。

6・人間になったら、したいこと

4から十数分後。

主人公とモニカ、二人でベッドに入っている。
すでに着替えて、寝る準備は万端。

そこでモニカ、ドキドキと話を切り出す。

SE1…部屋の環境音 【トラック1〜5のSE1と同じ。トラック終了まで、ごく小さな音で流す】

SE2…モニカがベッドの中でごくそ動く音 【すべて流す】

「ねえ。あなたって、生まれてからの最初の記憶ってわかる？」

〈主人公〉

「覚えてる覚えてる。

児童会館？ の肋木（ろくぼく）に登って遊んでたら、うっかり落下して。
頭を打ったって記憶だよ」

【予想外にハードなのでギョツとする】

え？ それはいきなり大変な記憶ね。

【気を取り直す】

※ここから次の「※」マークまで、真面目な口調で。

あのね。私の最初の記憶は、あなたが。

今にも死にそうになっている私を、病院に連れて行ってくれる思い出よ。

あの時私、実はもうだめなんじゃないかと思ってたの。

寒くて、苦しくて……。

あなたが頑張ってくれてるのに『もう何をしても無駄よ。私はこのまま死んじゃうの』って、自分を諦めそうになっていたの。

でも、あなたは手を尽くしてくれた。

何のゆかりもない捨て犬の私を拾って、また元気に暮らせるようにしてくれた。

きっと、すぐお金もかかったでしょうに……。

『これから一緒に住もうね』って言ってくれた。

だから私。

あなたとお金持ちで、すぐ余裕のある人なんだろうって、最初の頃は思い込んでいたの。

でも、すぐに違ってたわ。

【泣きそうになる。毎日倒れるほど真面目に働いている主人公を想うと涙が出てくる】

あなたは毎日お仕事大変で、夜遅くまでフラフラになって。崖っぷちのところまで頑張っているのに。本当は、誰かを助ける余裕なんてなかったのに……。

それでも私を拾ってくれたんだって。 ※

あのね。だから。今度は私があなたに色々させてほしいの！

これからいっぱい勉強するし。

アルバイトもして家計も助けちゃうんだから！

【少し間を空けてから】

……大好き。

【真剣に。これを一番伝えたかった】

あの時私を諦めないでいてくれて、ありがとう……」

SE3…『ぼん、ぼん』と主人公がモニカの頭を撫でる音 【トラック4のSE8と同じ音。

0～4秒ほどまで流す】

〈主人公〉

「それは頼もしい！ ありがとう。でも。無理しないでね。

私はモニカと一緒にいてくれるだけで幸せなんだから」

「ダメよ！ 私。断固恩は返す主義なの。

……あ。そういえば、さっきの用事って何だったの？

【申し訳なくてしゅんとする】

私、話も聞かずに追い出してしまったわ」

〈主人公〉

「そうそう。今度近所の神社でお祭りがあるから、一緒に行こうよって誘おうと思ってたの。

花火大会もあるんだよ。どうでしょう？」

SE4…モニカがベッドの中で大きく動く音 【0～2秒ほどまで流す】

【大きくテンションが上がる】

えっ 夏祭り？

行く！ 行くわ！ ぜひ連れて行って頂戴！

【ハッと気づく】

そっか……私。これからはあなたとどこへでも行けるのね。

もう、一人でお留守番なくていいのね！

【さらにテンションが上がる】

あのね！ だったら私！ あなたと行ってみたい場所がたくさんあるの！

まずはね、遊園地でしょう。それから、海でしょう？

それから……それから……。

【眠くなってくる】

んー……」

SE5…モニカがベッドの中で眠そうにもぞもぞ動く音 【0～3秒ほどまで流す】

〈主人公〉

「大丈夫？ モニカ。そろそろ眠いんじゃない？」

【「とても眠い」

んにゃ……まだまだいけるわよ。最近の犬は夜更かしなのよ。

【眠い。話し方が非常にゆっくりになる】

だからね……それから……。それからあ……。

【眠ってしまう】

ぐう……むにゃ……」

主人公、眠ってしまったモニカを見て、思わず笑ってしまう。

モニカの頭を撫で、自分も寝る事にする。

SE6…主人公がモニカの頭を撫でる音 【0～3秒ほどまで流す】

SE7…主人公が部屋の明かりを消す音 【0～2秒ほどまでの、1回目の『ボ、コン』を流す】

SE8…主人公がモニカに布団をかけ直す音 【0～7秒ほどまで流す】

しばらく環境音のみで、そのままフェードアウトする。

7・夏祭り花火デート

夏祭り当日。夕方。

主人公とモニカが出かける約束の時間までは、あと一時間ほどある。

モニカ、本当は浴衣が着たかったが、アルバイトの初給料日には間に合わなかった。
なので、せめて精いっぱいおしゃれがしたいが、着る服が決まらない。

うーんうーんと考えていると、主人公がやってくる。

SE1…部屋の環境音 【トラック1～6のSE1と同じ音。場面転換する80まで、ごく小さな音で流れ続ける】

SE2…主人公がモニカの部屋の扉をノックする音 【トラック4のSE4と同じ音。すべて流す。初めてきちんと聞こえる】

「はい？」 **※声が少し遠い**

SE3…モニカが扉へ近づく足音 **※だんだん近づく** 【トラック3のSE12と同じ音。すべて流し、3回繰り返し。今度は本来のスピードで流す】

SE4…モニカがふすまを開ける音 【すべて流す】

「どうしたの？」

「まだお祭りの時間まで余裕あるわよね？」

主人公、何やら大きな包みを持っている。

〈主人公〉

「実はね、私からモニカさんにプレゼントがあるんですよ」

SE5…主人公が紙袋からプレゼントを差し出す音 【0～5秒ほどまで流す】

「えい」

〈主人公〉

「遅くなっちゃったけど、助けてくれたお礼。プレゼントだよ」

「飛び上がるほど嬉しい」
くれるのほな、何かしら！

開けてもいい？」

〈主人公〉

「もちろん！ 良かったら、今日ぜひ着てほしい」

「着るもののなの？」

SE 6…モニカが包みを開ける音 【SE 5と同じ音。20～25秒ほどまでを流す】

モニカ、中身が浴衣だと気づく。

「浴衣……」

すごい！ 私、浴衣を着られるなら、こんなのが良いって思ってたの！
こんな可愛い服が着られるなんて……。

【嬉しくて泣きそう】

に、人間になれてよかったあ。

ありがとう！ すごく嬉しいわ。

今日は早速これを着て出かけるわ！

【ここで、着方がわからない事に気づく】

あつ。

あなた、着付けってできる？

私、初めてだから。ちゃんと着られるか自信がないのだけれど……」

〈主人公〉

「もちろん全くできない！

これからインターネットを見ながら、頑張って着付けよう！
時間はギリギリになっちゃいそうだね！」

【呆れてはいるが嬉しい】

もう！ そんな事だろうと思ったわ！

でも大丈夫よ。時間までにバッチリ着こなしてみせるわ。

えへへ……浴衣デートね！」

SE 7…モニカがポケットからスマホを出す音 【トラック1のSE 7と同じ音。0～2秒ほどまでを流す】

SE 8…モニカがスマホを操作する『ピ』という音 【トラック3のSE 5と同じ音。すべ

て流す】

【真面目に。スマホを取り出す】

では早速……着方を調べましょうか……」

ここで一度フェードアウトする。

約一時間後。

主人公とモニカ、お祭り会場に到着し、早速食べ歩いている。

SE9…お祭りの環境音 【小さめに、場面転換する まで繰り返し流す】

SE10…モニカの足音 【0.4秒ほどまで流して止め、セリフ。124で再開する】

【非常にしやいでいる】

ねえ！ 次はあっちに行ってみたいわ！ あと林檎飴。買って！

〈主人公〉

「えっ、モニカさん、まだ食べるの？」

「食べるの！ だって、とってもおいしそうで。気になるんだもの！」

〈主人公〉

「割と食べすぎでは？」

主人公、そうはいいいつもモニカに甘い。さっそく林檎飴を買って、モニカに渡す。

「いいの！ 明日からダイエットするから！」

【林檎飴を受け取って】

あ♥ ありがとう♥

〈主人公〉

「どういたしました。まあ。ぼっちゃりさんになったモニカもそれはそれで……」

「あつてもダメよ！ 太ってもいいなんて甘やかさないで！」

体型は断固、維持するわ。

でも今はたくさん食べるの。もぐもぐ……」

〈主人公〉

「でも林檎飴が最後だよ！

そろそろ花火が始まるから。席！ 取りに行こう」

「【すっかり忘れていた】

あ！ そうだったわ。私、花火を見に来たんだった」

〈主人公〉

「花火を見るのに、すごくいいところを知ってるんですよ。そこへ行つて見よう？」

「いい場所を知ってるの？ 楽しみだわ……！」

SE11 …モニカの足音 【SE10と同じ音。131まで、環境音に馴染む程度の音量で流し続ける】

「あっち？ わかったわ！ 行きましょ！
確かにあの辺だけ人が少ないかも！」

モニカ、場所を聞くなり、猛ダッシュで駆けていく。

SE12 …モニカが駆けていく足音 【0～6秒ほどまで流して止め、セリフ。139のセリフで一度立ち止まり、その後再び歩き出す前に花火大会が始まるイメージ】

〈主人公〉

「はやい？」

「【非常にはしゃいでいる】 ※声がやや遠い

ほら！ あなたもはーやーく！ 始まっちゃー！」

しかし、場所につく直前で、花火大会が始まる。
大きな音に、モニカは驚く。

SE13 …花火大会の開始を告げる音

「始まった!」

SE13 …一際大きな花火の音 【SE13を14からそのまま流し、13秒目の大きな花火の音が、このタイミングに合うようにする】

【非常にびつくりしている】

わ、わ、わ。すごい……。花火の音ってこんなに大きいの?」

そこに、主人公が追い付いて、モニカの手を握る。

〈主人公〉

「怖い? 大丈夫?」

【主人公を心配させたくない】

あ! 大丈夫よ! ちょっとびつくりしただけ!
あなたがいるんですもの。何も怖い事なんてないわ!」

モニカ、花火におびえているのかと思いきや、あっという間に魅了される。
結局二人『いい場所』ではなく、そこへ向かう途中の道で、立ったまま花火を見る形になる。

【感激している】

わああ……。

すごい……。

花火って……花火って……すごいね!」

〈主人公〉

「ふふふ。それはよかった。綺麗でしょう」

【「ゆっくり、感動をかみしめる」

うんっ! とても。とても綺麗……」

二人、並んで花火を見る。

しばらく沈黙。

花火の音だけが続く。

【真剣に】

ねえ。連れてきてくれてありがとう。

【感動のあまり、泣きそう】

私今日の事。ずっと忘れないわ……」

二人、何だかロマンチックな雰囲気。

しかしそこでモニカ、何かを思い出したようにピョンとはねる。

「ハッ！　　と思い出す】

あ！　そうだ！　あのね。私知ってるわ！

花火を見たら。大きな声で叫ぶのがルールなんでしょう？」

主人公『そんなルールあったっけ？』と思いつつモニカを見守る。

主人公、おそらく『たまや』『かぎや』の事だろうと考える。

SE14

…モニカが駆けていく足音　【SE10、11と同じ音。10、11よりもかなり速度を上げて、すべて流す】

「幸せそうに花火に向かって思いっきり叫ぶ】

※本当に大きな声で叫ぶのではなく『叫び風の演技』でOKです。

あのねー！　大好きー！

【主人公の方を振り向いて言う】

これからずーっと！　ずーっと一緒よー！」

主人公、ちょっと恥ずかしいが嬉しい。

モニカの愛情表現はストレートなので、ドキドキしてしまう。

【嬉しくてキャッキャしている】

ねえ！　あなたは？　あなたは？

【少し間を空けて。返答の代わりに主人公の顔が近づく】

あ……。

【キスする】

ちゅっ。

【少し間を空けて】

わ……。

は。花火を見ながらキスするなんて。何だかドラマチックね……。♥

【さっきまではしゃいでいたが、急にドキドキして恥ずかしくなる】

夢、みたい……。

【とてもドキドキしている】

あの。もう一回……」

しばし沈黙。

主人公、キスしようとして、大変な事に気づく。

一方モニカ、せっかくいいい雰囲気なのに、主人公がなかなかキスしてくれないので『おかしいな』と思い始める。

〈主人公〉

「あー！」

「『あれ？ 何でキスしてくれないの？』と思っている】

ん？」

〈主人公〉

「モニカさん……！ 耳が……！」

「『せっかくロマンチックな雰囲気だったのに！』と思っている】

ほあ？ 何よ。耳がどうしたの？

【気づいて非常に驚く】

うわぁー！ 耳がー！」

〈主人公〉

「まずい！ しっぱは？」

「しっぱは。まだ大丈夫だけど。多分時間の問題。

あわわわどうしましょう。まさかこんな場所で戻っちゃうなんて……」

主人公、慌てつつも、ひとまずモニカを落ち着かせようとする。

主人公、できるだけゆっくりと話す。

〈主人公〉

「大丈夫。場所が場所だから。

犬の耳が生えてるだけなら、みんな単なるコスプレかな？　　って思うはず。

でも、犬化。始まったら早いよね……急がないと……。

歩ける？　できれば走れる？

とりあえず人気がないところまで行こう」

「何か考えがあるの？」

〈主人公〉

「あると言えばある！　大丈夫。私についてきて」

「わ、わかったわ！　あなたの言う通りにする！」

主人公、慌ててモニカを人気がないところへ連れて行く。

SE15 …主人公とモニカが走る足音　【SE12と同じ音。12よりもスピードを速めて
長し、フェードアウトする】

環境音と足音が次第に小さくなり、フェードアウトする。

8・浴衣で野外えっち

6から数分後。

主人公、モニカを人気がないところへ連れて行く。

場所は、お祭りをやっている神社の建物の裏。

二人は、建物の奥の、縁側のような、座れる場所に隠れている。

辺りには誰もいない。が、もし来たとしてもおかしくはない場所。

花火は遠くで聞こえる。

SE1…花火大会の環境音 【0〜5秒ほどまで流してSE2。その後、一度フェードアウトする】

まで流し続ける。花火大会会場からは離れている印象にするため、ボリュームは小さめにする】

SE2…主人公とモニカの足音 【トラック7のSE10と同じ音。0〜5秒ほどまで流して15のセリフ】

【なぜかこそこそ、小声で話す】

ず、ずいぶん。人気（ひとけ）のないところね。こんなところまできて何をするつもり？
駅はあっちよ？」

〈主人公〉

「モニカさん」

「ん？」

〈主人公〉

「状況を打破する手段はこれしかない。ここであっちしよう」

「え、ええーっ？」

〈主人公〉

「モニカの気持ちは非常にわかる。

私も自分で言っておいて、かなり『えーっ？』って思ってる」

「そりゃそうよ！ そんなの普通じゃないわよ。

【言いづらく、少し間が空く】

いくら、人のいないところとはいえ。こゝ。

そ、外よ……？」

〈主人公〉

「まあまずは私の話を聞いてほしい。

私なりに、モニカの犬化が止まる方法が具体的に何なのか考えたんだよ。

『えっちら治る』とはいうけど、それだけじゃ漠然とし過ぎてるからね。

思えば初めてした時、私にしてくれてる時は、モニカの身体に変化なかったけど。

私がしてあげて、モニカがイツちやったら、あっさり耳は人間のに戻ったよね。

つまりモニカが気持ちよくなれば……。

耳は引っ込んで人間モードに戻ると思うと私は考えている」

「冷静に分析しないで！ 恥ずかしいからあ！

【小さな声でごによごによ話す】

でもそうよね。いつも、私が気持ちよくなったら、身体は元に戻るものね。だから、今日もそうすればいいわよね。

私もっ。そう思うけどお……だけど、だけどお……」

しばし沈黙。

〈主人公〉

「このままなんとか誤魔化して家に戻って。

それからえっちするって方法もあるけど。

ここから家までちよつとあるし……。

この辺で何とかするにしても、多分今日は、ホテルとかも混んでる。

いつ入れるかわからなくて、かえって時間かかるかもと思うと、ちよつと怖いよね……。

というか正直に言うと。

今日のモニカいつもに増して可愛いから。今すぐいちゃいちゃしたいといえますか……。

だって、何かあって手遅れになったら怖いし……」

【怒っているようだが、本当は嬉しい】

はあー……っは 色々もつともらしい理由をつけておいて、本音はそれねっ？ 浴衣姿の

私が可愛いから、我慢できなくなっちゃったって訳ね……っは もう！ もう！ 変態っ…

……！」

〈主人公〉

「その通りです……。

だってモニカ、想像してた以上にその浴衣、似合うんだもん。
すごく可愛い。今日お祭りに来てる人の中でダントツで一番可愛い。
人ごみの中でモニカだけ輝いて見える」

【本当は嬉しい】

もお。呆れたわ。バカな人……！

【少し間を空けて。甘えた雰囲気で】

……でもね。我ながらバカだとは思うけど。
ちよっと嬉しくなってる自分が嫌あ……。

だって。本当はちよっと不安だったの。今日の私、ちゃんと。できてるのかなって。
人間の女の子として、あなたとちゃんと歩けてるのかなって……。

【泣きそうになる】

だから、今可愛いつて言うなんて、ずるいっ……。

【少し間を空けて。甘えた雰囲気で】

ねえ。あなた、ちゃんとわかってる……？

私。あなたと恋人になれた今が、本当に幸せなの。

たとえあなたが。思ってたよりかなりえっちな人でもっ。

【話しながら、どんどんどキドキしてくる】

褒められたら飛び上がりそうな程嬉しいし。

い。一緒にいるだけで。こうやって手を繋いでるだけで……。

すぐドキドキっ、してるの！」

モニカ、主人公に抱きつく。

主人公の首に両手を回して、至近距離で話す。

SE3

…モニカが主人公に抱きつく音

【すべて流す】

「ばかあ。もうあなた、やだあつ。

でも好きい。

これじゃ。私の方がバカだわっ……。

【キスする】

ん♥

もお……。

こんなところでなんて……。本当に本当に変態！

絶対この身体、治してくれなきゃ嫌なんだから。

絶対気持ちよくしてくれなきゃ嫌なんだからっ……♥

【20秒ほどキスする。ゆっくりした、甘いキス】

ちゅ♡んっ。ふっ……♡あ♡ん♡ちゅっ♡くちゅるっ……ちゅ♡ちゅ♡ん
うっ……ちゅっ♡ちゅ♡

〈主人公〉

「モニカ……可愛い……大好き……」

「また、そんなのずるいつ……」

あのねっ？ わかてるっ？

私の方があなたより、絶対絶対大好きなんだから……！

【キスする】

ん♡

【10秒ほどキスする。濃厚なキス】

ちゅっ♡ちゅぱっ♡くちゅ♡ちゅっ♡

【浴衣の中に手を入れられて、息をのむ】

はっ……♡ひゃほ

あっ……♡

【主人公が手を引っ込めそうになったので】

あっ……違うの……っ。やめてほしいんじゃないの。

嫌じゃ、ないの……っ」

モニカ、主人公の手を、自分の股間に導く。自分の股間を、浴衣越しに触らせる。

SE4…モニカが主人公の手を、自分の股間に導く音 【すべて流す。『急に大きな音がし

た』という印象にならないように、ポリウムはかなり小さめにする】

「10秒ほど荒い呼吸」

はあ、はあ、はあ……♡

【勇気を出して言う】

あ、のね……？

私。あなたの事あれだけひどく言っておいて。

【声が震える】

ほんととは、この、中。

さっきからずっと。ぐちゅぐちゅに、なっちゃってるの……。

ほんとはずごくっ。ドキドキ、してるのっ……！」

モニカ、自ら帯を解いて、浴衣を脱ぐ。

SE5…モニカが浴衣を脱ぐ音 【0〜7秒ほどまで流して149のセリフ】

「あは……♥ 我ながら、どうかしてると思う、わ……。

自分からこんな事、しちゃうなんて。誰か、来るかもしれないのにつ……。

でもねっ？

私、あなたとだったら、えっちすぎる思い出もほしいっ……。

初めてきた、夏祭りで。こんな恥ずかしい事しちゃった思い出すらっ、ほしい……っ♥

【恥ずかしいので、主人公のせいにしたい】

ねえっ。こんなの全部。あなたがいけないのよ……？

あなたがいつも優しくて、甘えさせてくれて。いっぱい気持ちよくしてくれるからあ。

私犬だった頃よりずっとあなたの事好きになっちゃったの。

あなたとだったら何でもしたいのっ……！！

【早口で、甘えた声で】

だから触って？ 私的事、気持ちよくして？

身体がどうかともういいの。私今あなたに触ってほしいの。お願いっ」

SE6…主人公がモニカの下着に手を入れる音 【トラック5のSE12と同じ音。6〜9

秒ほどまでを流す】

SE7…主人公がモニカの股間を愛撫する音 【178まで繰り返して流し、セリフの内容によ

って適宜スピードとボリュームを変える。詳しい指示はセリフ内の緑の網掛け】

※最初はボリュームは小さめ。0〜1秒の最初の『くちゅ』のみ流して178まで一度止め、

171のセリフ。

【直接クリトリスを愛撫されて】

あ♥」

〈主人公〉

「ほんとだ。すっごく、ぐちゃぐちゃ……」

【観念して認める】

……でしょ？ 私も、あなたと同じ位。変態って、事ね……。

※まだボリュームは小さめ。続きを流し始める。1〜2秒ごろの2回めの『くちゅ』を流してから181のセリフ。ここから先はSEを流し続ける。

【直接クリトリスを愛撫されて】

ああっ……♡ すごいつ……気持ちいいっ。ふあっ……♡
えへ。お外で声出しちゃ、いけないのに、出ちゃう……♡

【20秒ほど喘ぐ。押し殺そうとはするが、結局漏れてしまう】

ふああっ♡ ひゃっ♡ んんっ……♡ あ♡ ……あ♡ ん……ふっ♡ はあ……はあ……
…あ♡

ああ、ああ、あ♡ んんっ……♡

※ここから少しボリウムが大きくなる。

ああ。気持ちいいっ……♡

※ボリウムは「g」と同じだが、ここから少しスピードが上がる。

【20秒ほど喘ぐ。次第に声が大きくなり、達してしまう】

んんう、くっ♡ ああ♡ あ、あ、っ、あ♡ きもちいい……♡

【ここで達する】

ああああっ……♡

※ここでSE7終わり

【10秒ほどかけて呼吸を整える】

はあ、はあ、はあ……」

〈主人公〉

「モニカ……気持ちよかった……？」

【しばらく間を空けてから】

うんっ……気持ちよかったあ。

【少し間を空けてから。軽くキスする】

ちゅ♡♡ 好き♡

しばらく、環境音のみが続く。その後、一度フェードアウトする。

SE8…外の環境音【花火大会はすでに終了。『虫がうるさい』という印象にならないように、ボリウムは小さめにする】

数十分後。主人公とモニカ、少し移動して別の場所におり、抱き合ったままボーっとしている。

気が付くと、花火大会は終わっている。

モニカ、自分が原因とはいえ、がっかりする。

「ああ。ろくに見ないうちに花火が終わってしまったわ……」

主人公、仕方のない事とはいえ、モニカに申し訳なくなる。

モニカの頭を撫で『とりあえず近所で他に花火大会ないか調べてみよう』と考えつつ、近
日中に手ごろな花火大会があるかどうかはわからない。

ひとまず『来年も一緒に来よう』と励ます。

SE9…主人公がモニカの頭を撫でる音 【トラック6のSE3などと同じ音。0〜4秒ほ
どまでの2回分の『ぼん、ぼん』を流す】

〈主人公〉

「あはは……。今回は確かに残念だったけど。
また来年もあるよ。来年も一緒に来よう？」

【単純なので切り替えが早い】

……あ。そっか。そうよね！

【主人公から『来年』という言葉が出たのが嬉しい】
また来年、来ればいいわよね！ えへへ」

しかしモニカ『来年』という言葉が出た事で、とある事を思い出す。
昨日例の『お姉さん』から言われた話である。

【少し間を空けてから切り出す】

あのね……。今日はこんな事になっちゃったけど。昨日、例のお姉さんから連絡があつて。
もうすぐ私、身体が安定して。完全に人間になれるんですって」

〈主人公〉

「それはつまり……！」

「つまり。今日みたいな事はもう起きなくなるって訳」

モニカ、そうなれば主人公に迷惑をかける事はもうなくなるし、喜ばしいのはわかってい
るのだが、少し不安になる。

その必要がなくなってしまったら、主人公はもう自分とえっちしてくれなくなるのでは
……。と思ってしまう。

〈主人公〉

「そうなんだ！ やったね！ これで一安心だ！

……モニカ？ どうしたの？ なんだか不安そうだけど……」

【不安そうに】

でも。あの……。ねえ。私が完全に人の身体になれても。

今日みたいに……またしてくれる？

あのでも！ 外でじゃっ！ ないけどっ！」

〈主人公〉

「えい 当然だよ！ もうしないのい そんなのいやなんだけど！」

モニカ、主人公の回答にホッとする。

同時に主人公をつくづくスケベな人だと思うが、それは自分も同じなので『まあいいか』と思う。

「本当……？ よかった♡

えへへ。安心したわ！ そうよね。私達付き合ってるんだものね！

【甘える】

ね。ちゅーして？

【キスする】

ちゅ♡

モニカ、不安に思っていた事も解決し、いよいよホッとする。

が、そこでふと『なんか寒いな？』と気づく。

それもそうである。あれだけ苦労して着た浴衣を、自分は脱いってしまったからである。

【「う」で、ハッ、と気づく】

ところで私。ノリで浴衣を脱いってしまった訳だけど。

ちゃんと着て帰れるかしら？」

〈主人公〉

「あっ」

【『『やっぱりこの人忘れてた！』とあきれる】

『あっ』じゃないわよう！ やっぱり何も考えてなかったでしょう！

まあいいわ！　また二人で頑張つて。

私の事。このお祭りで一番可愛い子にしてね！」

しばらく環境音。やがてフェードアウトする。

9・雨の日のお迎え

ある秋の雨の日。二十時ごろ。主人公宅の最寄り駅。

主人公、仕事を終え、フラフラと帰宅中。今日はひときわ仕事辛い一日だった。

しかし、頑張った分のリターンがあるわけでもない。

つまり、くたびれ損。

主人公『こんな仕事辞めてやる!』と思うが、辞めたらすぐ次のあてがあるわけでもない。つまり、我慢するしかない。主人公は悲しくなる。

主人公、うだつのあがない自分がつらい。

せめて自分がもう少し偉くて、稼ぎがあつて、余裕のある生活ができれば、もっとモニカに楽をさせてあげられるのに……。と思うと泣きたくなってくる。

しかし、しょんぼりと改札を抜けると、その先でモニカが傘を持って待っている。

SE1…駅の環境音 【0〜5秒ほど流してからSE2を流す。その後、二人が移動するBGMまで流し続ける】

SE2…主人公のゆっくりとした足音 【0〜5秒ほど流してからセリフ】

※声が遠い

「あ。みーつけた!」

〈主人公〉

「あれ! モニカ! こんなところまでどうしたの?」

SE3…主人公がモニカの元へ駆け寄る音 【SE2と同じ音。6〜8秒ほどをスピードを上げて流す】

※声が近くなる

「心配だから迎えに来たの!」

さっき電話した時。

【心配そうに】

何だか様子、変だったから。

それから!」

SE4…モニカが主人公に、手にしている傘を見せる音 【0〜2秒ほどまで流す。『シユル、カサ……』という音で、手にしている傘を両手で持って、主人公に見えるように振っているイメージ】

「今朝、傘持っていくの忘れてたでしょう？」

【傘を見せて得意げに】

フフフ。私の傘に入れてあげてもよくてよ。相合傘ね！

【ドヤっている】

当然傘は私が持つわ」

主人公、モニカの顔を見て、思わず泣きそうになる。

本当は今すぐ悩みを打ち明けて甘えたいが、自分はモニカよりもだいぶ年上だし、モニカを不安にさせたくないの、できない。

辛い気持ちを、いつものように笑ってごまかしてしまう。

〈主人公〉

「なんとありがたい！

いや、でも気持ちは嬉しいんだけど。それは身長差的にちよつと厳しいのでは……？」

【得意げに】

フン。身長差？ なんの！ そんなものに屈する私じゃないわ。

【明るく優しく】※聞いている側が、思わず温かい気分になるイメージです

さ！ 帰りましょ」

二人、駅を出て帰り道を並んで歩く。

SE5…主人公とモニカが歩き出す音 【SE2、3と同じ音。10～15秒ほどまで流し

て外へ】

※ここからSE1がフェードアウトする

ここで駅の外へ出る。

SE6…外の環境音。雨が降っている 【SE1に変わって音が大きくなり、0～3秒ほど

まで流してからSE7。その後、二人が移動して室内に入る まで流し続ける】

SE7…モニカが傘を開く音 【すべて流す】

SE8…主人公とモニカが歩き出す音【環境音に馴染む程度の小さなボリュームで、二人が移動し終わり、モニカが傘を閉じようと立ち止まる156まで流し続ける】

以降、雨の音と足音が聞こえる。しかし、雨にかき消されて足音はあまり聞こえない。
さらに二人、傘の中で話すので声がこもる。

【無理に背伸びする】

とりやつ！ ほらね。問題ないでしょ？

【早速ヨロヨロしている。そのため、言葉が変なところで切れる】

このままっ、あ、な、た、を。おうちまでっ……エ、スコートしてっ。差し上げるっ。わ」

SE9 ∴『ビュオオオオ！』と、強い風が吹く音 【すべて流す】

そこで、強い風が吹く。

モニカの持っている傘は風にあおられ、背伸びしているモニカは、それだけで転びそうになる。

【無理に背伸びしたので、それだけでよろめく】

あ、あつ、あ……。やめて風（かぜ）ちょっと。

いや、負け、負けないわ……」

SE10 ∴『ビュウウウ！』と、さらに強い風が吹く音

【6〜10秒ほどまで流してセリ

フ。その後、次のセリフと重ねながら最後まで流す】

【吹き飛ばされそうになる】

ああああー！」

モニカ、ここでもうやく諦める。

【高くか細い声でコミカルに】

だめだわこれ。

【棒読みになる。ガツクリと観念している】

負けました。傘持っ下さい」

主人公、思わず笑ってしまう。

いつも自分のために頑張ってくれるモニカが、たまらなくいとおしくなる。

〈主人公〉

「やっぱりね。ではやはり、私が傘を持ちましょう。

わざわざ迎えに来てくれただけで、私は十分嬉しいよ。無理しないで」

「ぐぬぬ……。『持ってきてくれただけで十分嬉しいよ』じゃないわよ！
ていうかあなた。もし私が迎えに来なかったらどうするつもりだったの？」

〈主人公〉

「えーっと……」

「どうせあなたの事だから。自分なら濡れても良いと思って。

ずぶ濡れで帰ってくる気だったんじゃない？」

私が同じ事したら、絶対怒る癖に」

〈主人公〉

「あはは……」

モニカ、主人公が否定しないので、自分の予想が当たったと感じる。

モニカは、主人公がモニカの事ばかり優先し、自分自身の事は粗末に扱いがちなのが気に食わない。同時にそれを、とても心配している。

少し沈黙。

「【※マークまで真面目に】

でもね。私最近わかってきたの。

あなたは自分を大事にするのが下手だから。

辛くても、笑って誤魔化して。一人でボロボロになって。倒れたり、しちゃうから。

私。それがすごく嫌だったけど……。 ※

【ここで声が明るくなる】

それなら私があなただけの分まで、あなたを大切にすればいいんだってわかったの！
だから来た訳よ。これからはずっとこうだからね！ 観念なさい！

身体だってね？ 今はこんなだけど。

まだまだ成長するわよ。そのうち百八十センチくらいになったらどうする？

あなたの事なんか。

【『お姫様抱っこ』の『お姫様』の部分強調する】

おーひーめーさーまー抱っこで！

ヒョイって運べるようになってっちゃうんだから！

あなたの体重が百キロ超えてたって余裕よ。

その頃には筋肉もムキムキになってるはずですよ!」

〈主人公〉

「ボディビルダーみたいになったモニカかあ……。それもいいけど、今のままでいいですよ?」

【「ちよつと残念そうに」】

え? 今のままでいい? 懂れるんだけど。筋肉。

……とか言ってたら着いたわ。

今の家、駅近(えきちか)でいいわよね!」

SE11 …モニカが傘を閉じる音 【すべて流す】

SE12 …マンションの自動ドアが開く音 【すべて流す。冒頭の金属音のようなものが少しうるさいので、ボリュームを小さめにする】

SE13 …マンション廊下の環境音 【エレベーターに向かう過程で、次第に遠ざかる。まで流し続ける】

SE14 …モニカと主人公が、マンションに入っていく足音 【0〜2秒ほどまで流してSE15. ここで一度止まる。その後SE16の後再開。3〜8秒ほどまで流し、エレベーターに乗るSE17でストップする】

SE15 …マンションの扉が閉じる音 【すべて流す】

SE16 …モニカがオートロックを開錠する音 【すべて流す。ボリュームは、元の音よりもかなり小さめにする】

【「鼻歌を歌いながら開錠する」】

ふんふん♪」

SE17 …モニカがエレベーターのボタンを押す音 【すべて流す】

SE18 …エレベーターが到着する音 【すべて流す】

SE19 …エレベーターの扉が開く音 【すべて流す】

SE20 …エレベーターの扉が閉じる音 【すべて流す】

SE21 …エレベーターの環境音 【0〜10秒ほどまでこの環境音のみ流して、沈黙してある雰囲気を出したあと、188のセリフに入る。その後、214まで流す】

少し沈黙。エレベーターが動く音だけが聞こえる。

二人、マンションに入り、部屋に向かう。

エレベーターの中は二人きり。特に理由はないのだが、なんとなく、しばらく沈黙が続く。
と、そこで主人公が口を開く。

〈主人公〉

「モニカ……」

【心配して、優しく】

うん？ どうしたの？

〈主人公〉

「私。頑張っても頑張っても、自分が人並みになれてない気がする時がある。
今日もそうで……。自分がすごくダメな人間に思えて。
一体いつになれば、理想の自分になれるんだろうと思うと、気が遠くなって……。
さっきまで、それがすごく辛いなって思ってた」

「……そうだったのね。」

何よ。やっぱり辛い事があったんじゃない。迎えに行って正解だったわ」

〈主人公〉

「わかつちやいます？」

「わかるわよ。隠すだけ無駄よ。ばーか！
無理しない方がいいわよ。」

人間も犬も、正直な方が生きてて楽しいに決まってるわ。
辛い時はね。バンバン泣いていいのよ。でないと泣き方忘れちゃうわよ！

【真剣に】

そのために、私がいるんだから！

〈主人公〉

「モニカ……。ありがとう」

SE22

…エレベーターが止まる音

【SE18と同じ音。すべて流す】

「あ。着いた」

SE23

…エレベーターの扉が開く音

【SE19と同じ音。すべて流す】

SE24 …主人公とモニカの足音 【SE14と同じ音。0〜2秒ほど流してSE25。S

E25がやんでから、SE27まで、SE26と一緒に流す。その後、SE29の後、どの部分でも構わないので2秒分ほど流してストップ】

SE25 …エレベーターの扉が閉じる音 【SE20と同じ音。すべて流す】

SE26 …マンション廊下の環境音 【0〜10秒ほどまで流しSE27。その後、SE30まで流れたところでSE32に切り替わる。ボリウムは小さめにする】

主人公とモニカ、自分達の家にとどり着く。

SE27 …モニカが鍵を取り出す音 【0〜2秒ほどまで流し、SE28】

SE28 …モニカが部屋の扉を開錠する音 【すべて流す】

SE29 …モニカが部屋の扉を開ける音 【すべて流す】

SE30 …モニカが部屋の扉をかける音 【すべて流す】

※入室後、数歩歩いてここでSE24がストップ。

SE31 …部屋の環境音 【トラック1のSE1などと同じ音。トラック終了まで流れ続ける】

SE32 …モニカが靴を脱ぐ音 【すべて流す】

SE33 …モニカが部屋の中に入っていく足音 【トラック1のSE9と同じ音。0〜4秒ほどまで流して、242のセリフ】

モニカ、先の家の中に入っていく、主人公の手を引く。

※少し声が遠い

「ほら！ お風呂沸かしてあるの。」

一緒に入りましょう？」

〈主人公〉

「え？ 本当？」

主人公、モニカの気遣いが嬉しい。このままモニカに従うことにする。

SE35 …主人公が靴を脱ぐ音 【すべて流す】

SE36 …主人公の足音 【トラック3のSE9などと同じ音。5回繰り返し流す】

主人公とモニカ、脱衣所まで歩いていく。

主人公、早速服を脱ごうとするが、それをモニカが止める。

モニカ、主人公の服を脱がしながら話す。

SE37 …モニカが主人公の服を脱がす音 【0～2秒ほどまで流し、259のセリフ。その後、セリフと重ねて最後まで流す。ポリウムは、セリフの邪魔にならないように小さめにする】

「ああ。あなたは立ってるだけでいいわよ。

服、脱がしてあげる♪

【少し間を空けてから。服を脱がしながら話す】

あのね。さっきの話だけど。

努力をしても、すぐに結果がついてこない事もあるわ。

本当はうまく行っているけど……。成果が目に見えるまで、しばらく時間がかかる事もある。

ほら。お給料だって、働いた日からしばらくしてからまとめてもらえるお仕事が多くて。

すぐにいただけるお仕事は、ちよつと珍しいでしょう？

それと同じよ。

だけど、頭では理解できていてなお、それが苦しい。その気持ちとてもわかる。

【少し悲しげに。声のトーンが下がる】

……私もそうだから。

【明るい声に戻る】

でも、いいじゃない、みんなみたいに上手くできなくても。

多数派からはみ出しちゃう、変わり者の人生でもいいじゃない。

【真剣に】

あなたがこれからどんな事になっても、私はあなたの味方よ。何があっても。絶対あなたのそばにいる……。

【頬にキスする】

ちゅっ！

モニカ、主人公の服を脱がし終え、自分も裸になる。

主人公を浴室へ導く。

SE38 …モニカが浴室の扉を開ける音 【0～5秒ほどまでの、1回目の『カラララ』まで流す】

「ほら。いらっしやい！ カモン！

モニカ様が慰めてあげるわ！」

10・なぐさめお風呂ご奉仕

9からそのまま続き。

主人公、モニカの優しさが嬉しくて、浴室に入るなりモニカに抱きつく。

ここから浴室。声がエコーする。

SE1…浴室の環境音

主人公、モニカに抱きつく。

SE2…モニカが『おととつ』とよろめく音 【0〜1秒ほどまでの『コ、ト』のみ流す】

「抱きつかれてよろめく」

わ、わ、わ！

【呆れているようだが声は優しい】

何よもう。そんなに甘えたかったの？ もう。しょうのない人なんだからあ。

【後ろから主人公が顔を出し、顎を持ち上げられてキスされる】

ん……♡ ちゅ♡

【後ろから胸を触られる】

あ♡ ちよつとお。ひゃ♡ せつかち、すぎない……？

んもお……ま、いっか♡

【キスする】

ちゅ♡「

モニカ、うつかり雰囲気流されかける。

しかしすぐ『雨で、寒くて、身体冷えてるのに、このままいちゃいちゃしたら風邪ひかない』と気づく。

『うおりゃ！』と、甘えてくる主人公を引きはがす。

「主人公を引きはがす」

いややっぱダメ！

ほら！ まずはあつたまりましょ？ 身体冷えてちゃいけないわ！」

モニカ、主人公の身体を温めようと、シャワーかけからシャワーを外す。

「えいつー！」

SE3…モニカが蛇口をひねり、シャワーからお湯があふれる音 【頭の『ピツ』を消し、そこから5秒ほどまで流して49のセリフ。セリフが始まった際に、声の邪魔にならないように若干音量を落とす。その後、52までセリフと重ねて流す】

モニカ、主人公に向かって、思いつきりシャワーをかける音

〈主人公〉

「ひゃー！」

【洗いながら話す】

フフフ！ あったかいでしょ。

【優しく】

こうして……温かいお湯を浴びて、身体ほぐれたら。きっと気持ちも上向きになるわ。

※シャワーここで止まる

【モニカから顔を寄せて頬にキスする】

ちゅ♡

【優しく】

大丈夫よ。あなたは絶対大丈夫。今日は落ち込んでも、明日はきっと大丈夫」

SE4…モニカがお風呂椅子を持ち上げ、置く音 【すべて流す】

「よし！ はい椅子どうぞ。ここに座って？」

〈主人公〉

「モニカ……。えっと……あの……」

SE5…主人公がお風呂椅子に座る音 【すべて流す】

【やる気満々で】

んー？ そうよ。このまま全部してあげる！ おとなしくご奉仕されなさい！
ピッカピカにしてあげるわ。

まずはシャンプーかしら。あ。その前にお顔ね！

はい♡」

SE 6…モニカがプッシュ式のメイク落としのボトルをプッシュして、手につける音
【0
〜4秒ほどまで流す】

主人公、まさか顔まで洗われるとは思わなかった。
無理やり顔を持ち上げられ、洗われる形になる。

〈主人公〉

「おわー!!」

SE 7…モニカが主人公の顔をゴシゴシ洗う音 【0〜6秒ほどまで流し、88のセリフ。
その後セリフの邪魔にならないように95まで流す。元々のボリウムも小さめにする】

モニカ、されるがままの主人公が面白い。楽しくなってしまう。

「フフ、面白い顔♥ 目閉じててね？」

「……遅い時間まで働いて。

お化粧直す間もない位頑張っていると。

帰る頃には、身体ドロドロになってるじゃない。

【優しく】
それだけで気分、落ち込むわよね。
※SE7ここでストップ

【明るい声に戻る】

だから綺麗にしてあげる♥

でもね私、実はちよっと汚くなってるあなたも好きなの。

【優しく】
あなたがそれだけ、一生懸命生きてるって証拠だと思うから……。
はーい、流すわよ♥」

SE 8…モニカが『キュッ』と蛇口をひねり、主人公にシャワーをかける音 【0〜20秒
ほどまで流し、違和感がないようにフェードアウトする】

〈主人公〉

「モニカさんめちゃくちゃですわね!!」

【「全く悪びれない」

えへ。次は身体洗ってあげる。
よおし待ってなさい」

モニカ、そう言いながら、なぜか自分の身体を洗って、泡をつけ始めていく。

少し間。

「んしょとっ……。

フフフ。今日はスペシャルよ。

あなたこれ、好きでしょ？ 私の身体で洗ってもらうと嬉しいのよね？

ほら……♡」

モニカ、自分の身体を使って主人公の身体を洗っていく。

主人公とモニカの身体が密着する。

SE9…モニカが自分の身体を使って主人公を洗う音 【0〜3秒ほど流してから128のセリフ。その後168まで、セリフに合わせて流す。詳細な指示はセリフ内に記載】

【得意げに】

ふふ♡ 気持ちいい？

あったかくてドキドキする？

そりゃそうよ。こんないいスポンジこの世にないわよ。

柔らかくて、すべすべで！ 嬉しいでしょ♡

※ここで一度SE9が止まる

【モニカから三回キスする】

ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅっ♡

【次第に興奮して、話しながら呼吸が荒くなっていく】

……はあ。

※ここで一度SE9が再開する

あとねテクニクもすごいから。

はあ、疲れたあなたを、完璧に。はあ……癒してあげる♡

【だんだんドキドキしてきて、呼吸が荒くなっていく】

はあ、はあ、はあ……。

えへ。ぬるっとするのいいでしょ？

おっぱい使って♡ あなたのおっぱい、洗っちゃうわよ？

【ゆっくり言う】

……ほら、見て。あなたのおっぱいも、私の。おっぱいも。泡だらけになって。すっごくぬるぬるしたまま……。こすれ合ってるの。

【興奮してつばを飲み込む】

ごくっ。

【本格的に興奮してくる】

すっごく……やらしい……でしょ？

【10秒ほど荒い呼吸。無言で洗っている】

はぁ、はぁ、はぁ……♡

えへ。気持ちいい？ 私も気持ちいい……。

【乳首がこすれて、感じてしまう】

ん♡ そうだ。背中はね。

※ここで一瞬間を開け、SE9も止まる。その後、157のセリフと一緒にSE10も再開

こんな風に……♡ 手でさすさすしてあげる。

はぁ……はぁ。

背中撫でられると、ホッとするわよね♡

あなたが、いつもしてくれるみたいにするわ。

【完全に興奮している】

はぁ、はぁ、はぁ……。

【また乳首がこすれて、感じてしまう】

あっ♡

【甘えた声で。完全に興奮している】

ねえ……」

※ここでSE9が止まる

〈主人公〉

「何？ むずむずしてきちゃった？ してあげようか？」

「ダメよ……今日は私がするの♡ あなたはただ座ってるだけ。

【モニカからキスする】

ん♡ ちゅっ♡

【熱っぽく】

すっごく気持ちよくしてあげる……。

【20秒ほどキスする。積極的に濃厚なキス。一度唇を離して、さらに濃くキスする】

ちゅ♡ んっ。ふっ……♡ ちゅるっ。ちゅ、ちゅ♡ じゅるっ……れろっ はぁ……は

ぁ♡ んんうっ……ちゅっ♡ ちゅ♡

【10秒ほど荒い呼吸】

はぁ、はぁ、はぁ……。

流す、わね♥

SE10…シャワーからお湯があふれる音

【0～3秒ほど流し、192-193のセリフと重ねて流し、SE11】

モニカ、洗いながら話す。

【興奮して】

えへ。シャンプー……忘れてた……。でも私もうダメかも。止まんない。すっごいいやらしい気分になってきちゃった」

※ここでSE10が止まる

SE11…モニカが蛇口をひねる音

【3～5秒ほどまでの『キュッ』のみ流す】

【「甘くささやく」

ね。足、開いて？ 口で、してあげる……」

SE12…モニカが浴室の床に膝をつく音

【SE5と同じ音。すべて流し、音は小さめにする】

モニカ、主人公の股間に顔をうずめて、主人公の股間を凝視する。

【「かがんでいる状態。まだ舐めていない」

ん……♥

【主人公の股間が、がとても濡れているのに気づく】

わ♥

何よ……ぐっちゃぐちよじゃない♪

私知ってるわ。あなた、いつも私を『すぐ濡れちゃうね』ってからかうけど。本当はあなただっていつも同じ位ぬちよぬちよになってるって。

ねえっ。せっかく洗ったのに。ここだけすっごくえっちな匂いがするわ？

【「ぼそっと正直に告白する」

……でも私。実はこれも好き。

【笑顔で主人公を見上げる】

あなたのぬるぬる、しょっぱくて。癖になるの……♥

【「一度だけ舐めて口を離す」

れろっ♥ はあ、はあ、はあ……♥
だから、頂戴？

【20秒ほど、ちろちろ、優しく舐める】

ちゅ……れろっ。ちろちろ……ちゅっ♥ ちゅぱっ……れろっ。ちゅるり……れろ♥

【とても幸せそうに】

ふふ……おいしい♥ もっと……舐めさせて……「

モニカ、主人公をさらに愛撫するため、足を持ち上げる。

SE13

…お風呂椅子が動く『カコン』という音 【2〜4秒目の『カカコン』のみ流す】

【わざとゆっくり言う】

ふふ♥ こんなに高く足持ち上げられて♥ 恥ずかしいところ見られちゃってる気分はどう？

お風呂明るいから、あなたのここがとろっところに濡れてるところ。全部見えるわ♥

それでね？ あなたの特に気持ちいいところは……れろっ♥ ここ♥

ちゅるっ……当たり。でしょ？

私ね。あなたの事全部知りたいの。だから、我慢しちやあよ？

気持ちいい時はちゃんと♥ あんあんって♥ 気持ちいい声出してね？

【30秒ほど、音を立てて丹念に舐める】

ちゅ……ちゅぱっ！ ちゅるちゅる……じゅるっ♥ じゅるる……ちゅぱっ……♥ ちゅるり……れろ♥ ぺろぺろ……ちゅるっ♥ ちゅぱっ、ちゅぱっ「

〈主人公〉

「モニカっ……私、もう……っ」

【口をつけたまま話しているので、うまく声が出ない】

んふ？

【口を離す。とても嬉しい】

イきそうなの……？

【わざと意地悪を言う】

もう？ もっともつとしてあげるのに。

【優しくなる】

でも、いいわ♥ じゃ、足持っててあげるから♥ 好きな時にびくってなっっていいわよ♥

【30秒ほど、さつきよりも音を立てて、舐める。しっかり攻める】

くちっ……ちゅ♥ ちゅるっ、ちゅる、じゅるっ♥ じゅるる……れろっ……♥ じゅる、

じゅる、ちゅぱっ♡ ちゅる、ちゅるるっ……れろ♡ ぴちゃっ、ぴちゃっ、ちゅる♡

【主人公がびくつと動いたので驚く】

んっ……は

【ここで主人公が達する】

んんふっ……!!

【10秒ほど荒い呼吸】

はぁ、はぁ、はぁ……♡

はぁ、はぁ……今の、びっくりした♡

うふ。気持ちよかった？ やったぁ♡

……私、ちゃんとあなたを気持ちよくできたのね♡

ちゅ♡ えへ……♡「

11・あしたのモニカ

※「明日」の読み方はすべて「あした」です。

10から十数分後。

主人公とモニカ、身体も髪も洗い終え、一緒に浴槽に入っている。

主人公が後ろからモニカを抱きしめるようにして入っている。

モニカ、主人公をたっぷり洗って、満足げにしている。

SE1…浴室の環境音 【0〜5秒ほどまで流してからSE2。その後、トラック終了まで

流し続ける。「ファンの音がうるさいな」と言う印象にならないように、音量小さめで流す】

SE2…モニカがお湯をいじる『ポチャン』という音 【すべて流す】

【満足げに】

はー気持ちいい。

犬の時はあんなに嫌だったのに、人間になれた途端これって。

私の適応力って我ながらすごいわ！

【少し間を空けて】

あのね。私、人間になれた日からずっと。

これからどんな人になりたいか考えてた。

それで最近やっとわかったの。

【告白するような雰囲気、真剣に】

……私はあなたが、安心して甘えられる人になりたいって。

あのね。まだ、ちょっと頼りないのはわかってるけど！

これ位の事なら、いつでもしてあげるから。

これからちよつとでも苦しくなった時は！ 即正直に言う事！

【フンと得意げに】

ま。言わなくても……。私は見抜いちゃうけどね！」

主人公、モニカの気遣いが嬉しい。

後ろから手を伸ばし、モニカの頭を撫でる。

SE3…主人公が、お湯の中で手を動かす『ポチャン』という音 【0〜1秒ほどの、1回

目の『チョパ』のみ流す】

〈主人公〉

「……ありがとう。一人じゃないって、いいね」

モニカ、主人公の言葉が嬉しい。
思わず『ぐるん！』と振り向く。

SE4…モニカが、お湯の中で勢いよく振り向く音 【0～1秒目の、最初の『ポチャ』のみ流す】

「そうよ！

これからあなた、一人になる事なんてもうないのよ！
だって私がずっとそばにいるんだもの！」

モニカ、主人公に伝えたいことがあるが、さすがに照れる。

少し間が空く。

【少し間を空けて。真面目に】

……あのね。私、生まれてきてよかった。あの時生きるの、諦めなくてよかった……。
今あなたといられる事が、本当に幸せだなんて思う。

今はね。毎日。

今日を、明日を、これからの人生を……。

どんな風にしようかって考えるのが、すごく楽しみなの！

ねえ。あの日、私に明日をくれてありがとう。

えへ。だいすき！

ずっと絶対離れないわよ。だから……これからもずっと、よろしくね！」

SE5…モニカが、お湯の中で主人公に勢いよく抱きつく音 【4～8秒ほどの、大きめの動き1回分のみを流す】

モニカ、照れ隠しに主人公に思いっきり抱きつく。

主人公、驚くが、モニカをしっかり受け止める。

〈主人公〉

「もちろん！ こちらこそよろしく！」

「うふふ。よろしく♥♥

あのね。お風呂あがったらおやつたくさんあるわよ！
アイスも、プリンも。チョコレートもあるから！
好きなだけ食べて、明日の元気に変えましょ？」

主人公、モニカの気持ちは嬉しいが『さすがに量が多いのでは？』と思う。
モニカは何が何でもデブモニカにはならないと言っているが、この調子では、正直なところ心配である。

〈主人公〉

「食べすぎでは……？」

「いいの！ 今日特別な日！

【モニカからキスする】

ちゅ♡

よーしそろそろ……上がりましょうか♡

SE 6 …モニカが浴槽から立ち上がる『ザバー』という音 【0～2秒ほどまでの、2回分の『チャパパ、チャパ』のみを流す】

〈主人公〉

「そうだね……今日くらいいいよね！

モニカ、いつもありがとう。私もモニカの事、大好きだよ」

【「とても幸せそうに」

ちゅ♡

SE 7 …主人公が浴槽から立ち上がる『ザバー』という音 【SE 6と同じ音。21～23秒ほどまでの、大きな動き1回分のみを流す】

SE 8 …主人公とモニカが、浴槽を出て、浴室を歩く『ヒタ、ヒタ』という音 【0～5秒ほどまで流す】

SE 9 …主人公とモニカが浴槽の扉を開ける音 【0～5秒ほどまで流してSE 10。その後SE 10がやнденから続きを流して、5秒ほど目の『パタン』で止める】

SE 10 …主人公とモニカが浴室を出る音 【SE 8と同じ音。6～9秒ほどまで流して終わる】

しばらく環境音のみで、フェードアウトする。

(終わり)